

明治十年刊『旧約聖書創世記第一二三章』の日本語訳

——ヘブライ語原典から訳されたことの証左——

吉 野 政 治

1 本稿の目的

明治二十一年〔1888〕二月三日に行われた旧約聖書訳成感謝会でのフルベッキ (G. Verbeck) の講演の中に次のような一節がある。「同七十六年 (明治九年) 十月卅日東京なる宣教師の中に於て集会を催ふし、東京聖書委員会なるものを置きて専ら旧約全書の翻訳に従事せしむることとなりしが、同委員は翌七十七年 (明治十年) 十二月一日の集会において創世記一章より第十一章までを出版することを議決し (下略)⁽¹⁾。この「創世記一章より第十一章まで」の訳は明治十一年に『旧約聖書創世記』として刊行されているが、その前年すなわち「議決」が行われた年に『旧約聖書創世記第一二三章』が刊行されている。これを明治

十一年刊のものと比較すると、三章二節の「吾等得食ふべし」の「得」が省かれ、三章一六節の冒頭に「又」が加えられている外は、三章二〇節のハアバ (人名 Howah, Eye) がエイバに、同章二三節のイヒデン (地名 Eden) がイーデンになり、「めぐみ」(第一章二八節) が「祝」に、「障る」(第三章三節) が「捫る」に、「付き」(第三章二四節) が「膠漆」と書かれるなどの表記の違いが見られるだけであり、明治十一年刊『旧約聖書創世記』の一部の試訳刊行本と考えられる。この『旧約聖書創世記第一二三章』が刊行された月は不明である。ただ、第十一章までの出版が議決されたのは十二月一日のことであり、その年の終わるまでの僅か一月間に翻訳と刊行がなされたとは考えにくい。既に刊行されていたか、刊行の直前の状態にあったものと思われる。した

がつて、委員会での議決は、第三章までの訳がそのような状態にあったことを踏まえて、「創世記」の第一章から第十一章まで、すなわち「創世記」の第一部(天地創造からアブラハムの系譜まで)を委員会による公式の旧約聖書翻訳の第一歩として刊行するということであつたと思われる。

ところで、明治十六年二月に井深梶之助を代表とする日本人信徒二十三名が東京翻訳常置委員と米國聖書会社および英國及外國聖書会社宛に提出された「旧約聖書」の翻訳に関する意見書(『東京毎週新報』四号、明治十六年〔1883〕九月五日発行所載)の中に、

(前略) 此方法ヲ議決セラレテヨリ以来既ニ四年有余ナリト雖、世ニ公ニセラレタル者ハ僅ニ創世記首ノ十一章ト約マ亞記小預言書ノ或ル者ノミ也。弟等ノ聞ク所ニヨレバ是スラ全ク旧約全書翻訳委員諸君ノ手ニ成レル者ニハ非ズト云フ。如何トナレバ創世記首ノ三章及小預言書ノ或部分ハ該委員設立前ニ或宣教師ノ翻訳セラレタルモノナリト云フ。果シテ然ラバ現今ノ方法ハ最初諸君ノ企図セラレタル目的ヲ達スルニ適當セル者ニ非ルナリ。

と見えるが、この「創世記首ノ三章」を委員会設立以前に翻訳

していたとされる宣教師は、おそらくタムソン(D. Thompson)であろう。ヘボン(J. C. Hepburn)の明治五年三月七日付米國聖書協会宛の書簡に、

江戸のタムソン氏は旧約聖書の初めの四書を訳し、丁度、申命記を訳しておりますが、これらはまだ改訂されていません。わたしは創世記の改訂の準備にかかっています。

と見える。タムソンは文久三年(1863)に來日し、一時ヘボン宅に同居した人物であり、元治元年(1864)には幕府の命令で、ヘボン、ブラウン(S. R. Brown)、バラ(J. H. Ballagh)とともに横浜の運上所で英語を日本人に教えた一人である。タムソンはまた、東京聖書委員会の四人の翻訳委員(タムソン、カクラン[G. Cochran]、ワデル[H. Waddell]、パイパル[J. Piper])の一人ともなっている。したがつて、彼は自らの訳を翻訳委員の一員として改めて検討したことになる。

ところで、植村久正が「已ニ出版セル創世記(十一卷)」約書並等ヲ見ルニ新約全書ニハ似モ付カヌ疎末ナル訳文ト言ハザルヲ得ズ」と言っているように、この十一章までの訳は、あまり出来の良いものではなく、更に訂正が加えられたものか、明治十六年に『旧約聖書 創世記 完』として刊行されている。冒頭

部分を例にとると、明治十一年刊（＝明治十年刊）では、

1 元始に神天と地とを創造れり

2 然て地は形なく空かりき闇きは淵の面の上に在りしが神の靈水面の上に掩ひ居たり

3 神明りなれといひしに明りなりき

であったものが、明治十六年刊では、

1 元始に神天地を創造たまへり

2 地は定形なく虚曠くして黒暗淵の面にあり神の靈水の面を覆たりき

3 神光あれと言たまひければ光ありき

となつてゐる。フルベツキの講演によると、明治十六年刊の翻訳者はタムソンとファイソン (P. K. Fyson) であり、ファイソンの手が新たに加わつたようである。この改訳本は明治二十年に「再版」されているが、同じくフルベツキの講演によると、この時の翻訳責任者はヘボンとファイソンであり、ヘボンの新たな手も加わつてゐるようであるが、さらに明治十七年に正式に翻訳委員として加わつた日本人翻訳委員の手も入つてゐるものと思はれる（ただし、右に掲げた創世記の冒頭部分は明治十六年刊のものと同じ）。この明治二十年刊の訳文が明治二十一

年刊の『旧約全書』に収録されたものと思われる。

ところで、外国翻訳委員は「旧約聖書」の翻訳に先だつて「新約聖書」の翻訳を行つてゐるが（明治十三年『新約全書』刊）、その翻訳の実質的な底本となつたのはジェームス王欽定英訳 (Authorised Version, 1611) のようであるが、その日本語訳は漢訳聖書の書き下し文との関係が極めて濃いものである。例えば「約翰黙示録」冒頭部分をブリッヂマン (B. C. Bridgman) とカルバートソン (M. S. Culbertson) による漢訳と比較すれば次のとおりである。

1 此イエス、キリストの黙示すなはち神彼をして迅速に起るべき事を彼の僕等に示さんとて彼に賜ひし所なり。
イエス、キリスト其使を以て僕ヨハネに贈り示し給へり。

耶蘇基督之黙示、即神所賜彼、致下以迅速將成之事
示中其諸僕上、耶蘇乃遣其天使示之於其僕約翰。

2 ヨハネ神の道とイエス、キリストの証と其凡て見し所のものとを證す。

約翰以三神之道与耶蘇基督之証及其凡所見者爲之

作し証。

3 この預言の書^{よげん}を^{よむ}読者と之^をを^き聞いて^な其中^にに^{しる}記しある所^をを守る人々は^{さいはひ}福なり、蓋^{さへ}時^{ちか}近ければ也。

読^よ此^こ預言之言^{ごんごんごんごん}一与^{ひと}下^{した}凡聞^{ぼんもん}之^を而^を守^{まも}其所^{こゝ}一録者^{ろくしや}上^{かみ}乃^{すなは}有^あ福。蓋^{さへ}其^{その}時^{とき}近^{ちか}也。

明治二十一年刊『旧約全書』に収められている日本語訳もまた、ジェームス王欽定英訳を實質的な底本としているようであり、完成した日本語訳もまたブリッヂマンとカルバートソンの漢訳聖書の書き下し文に似た日本語訳が多く見られる。

外国人宣教師による不完全な日本語訳を、漢訳聖書に親しみ、漢文訓読体を基とする文体を莊重な文体として好んでいた日本人が整えたとすれば、そのような日本語訳になるのは必然であつたと言える。したがって、「旧約聖書の明治訳は英訳と漢訳から来たもので、原典はそえものであつた」という⁽⁵⁾う、わざも早くからあつたようである。現在でも日本語訳聖書は漢訳聖書から訳されたものであるとする者も多い⁽⁶⁾。

しかし、旧約聖書翻訳委員会の長であつたヘボン⁽⁷⁾は、旧約聖書訳成感謝会における講演において、できる限りヘブライ語原文に忠実に訳したと述べている。

... as literally as possible to the Hebrew original, desiring not only to give its true meaning, but also retain the beautiful and instructive figurative language in which God has conveyed his mind to the children of man.⁽⁷⁾

そしてまた、本稿で明らかにするように、明治十年刊『旧約聖書^{創世記第}』の訳文はヘブライ語原文に忠実に訳されている。

とすれば、明治期の翻訳委員会による「旧約聖書」の翻訳は、当初ヘブライ語原文に忠実に訳されていたのが、後に欽定英訳と漢訳に大きく依存したものになつたといふことになる。その経緯については別稿に譲り、本稿では旧約聖書翻訳委員会が公式なものとして最初に刊行したものが、確かにヘブライ語原文に忠実に訳されたものであることを具体的に示すことにする。

2 訳文の検討

以下、明治十年刊『旧約聖書^{創世記第}』各章節の日本語訳をヘブライ語原文および日本語訳の本文に直接的に関わる英訳聖書と漢訳聖書の本文と対照させて掲げる。

用いたテキストは次のとおりである。ヘブライ語原文には“Biblia Hebraica Stuttgartensia”（ドイツ聖書教会刊）を用い

たミルトス・ヘブライ文化研究所編『ヘブライ語聖書対訳シリーズ』（株式会社ミルトス、平成元年〔1990〕刊）を用いる。ただし、印刷の便によりヘブライ文字を略し、原文を日本語式カナ発音で示したものとその逐語訳を掲げる。その逐語訳は、訳注者が言われるように「原語のニュアンスを一つの訳語に限定するのは無理な場合」があり、他の訳語を当てることも可能であろう。しかし、原文がどのような語句で構成されているのかを知る参考にはなる。英訳には「The Holy Bible, Containing the Old and New Testaments: London: British and Foreign Bible Society. 1611」を用い、漢訳にはブリッチマンとカルバートソンの『旧約全書』⁽⁹⁾（以下[A]）、および英国と米国の代表委員による『旧約全書』⁽¹⁰⁾（以下[B]）の訳を掲げる。[A]と[B]にはそれぞれ明治十六年刊『訓点旧約全書』と明治十四年刊『訓点旧約聖書創世記』の訓点を参考に返り点を付す。また、日本語訳には私に句読点を付し、旧字体の漢字は新字体に改める。

2-1-1 第一章の訳文

1 元始に、神、天と地とを創造れり。

【原】ベレシート（初めに）バラ（創造した）エロヒー

ム（神は）エツト（を）ハシヤマイム（天）ヴェ
エツト（と）を）ハアレツ（地）

【英】 In the beginning God created the heaven and the earth.

【漢】 [A] 元始時、神創造天地¹。

[B] 太初之時、上帝創造天地¹。

2 然て地は形なく空かりき。闇きは淵の面の上に在りしが、神の靈水面の上に掩ひ居たり。

【原】 ヴエハアレツ（そして地は）ハイター（〜であった）トフリー（形なく）ヴァヴォフ（虚しい）ヴェほシェム（そして闇が）ア（の上に）ペネー（面）テムム（深淵の）ヴェルアは（また霊が）エロヒーム（神の）メラヘフェト（飛び回っていた）ア（の上に）ペネー（面）ハマイル（水の）

【英】 And the earth was without form, and voyd: and darkness was upon the face of the deep. And the Spirit of God moved upon the face of the waters.

【漢】 [A] 地乃虚曠、淵面晦冥、神之靈、覆育於水面¹。

[B] 地乃虚曠、淵際晦冥、上帝之神、煦育乎水面¹。

3 神、明りなれといひしに明りなりき。

【原】 ヴァヨメル（そして言った）エロヒーム（神は）
イエヒー（あれ） オール（光が） ヴァイエヒ（す
るとあつた） オール（光が）

【英】 And God said, Let there be light: and there was light.

【漢】 A 神曰、宜有光、即有光焉。

B 上帝曰、宜有光、即有光。

4 神、明りを善しとみて、神、明りと闇きとの間を分ちたり。

【原】 ヴァヤル（そして見た）エロヒーム（神は） エット
（を） ハオール（その光） キー（ことを） トヴ（善
い） ヴァヤヴエる（そして分けた） エロヒーム（神
は） ベン（の間） ハオール（光） ウヴェン（ととの
間） ハほシヨふ（闇）

【英】 And God saw the light, that it was good: and God
divided the light from the darkness.

【漢】 A 神觀光為善、神遂分光暗。

B 上帝視光為善、遂判光暗。

5 神、明りを昼と名づけ、闇きを夜と名づけ、夕あり朝あり。
第一日なり。

【原】 ヴァイクラー（そして呼んだ） エロヒーム（神は）

らオール（その光を） ヨム（昼と） ヴェラはシェふ
（また闇を） カラー（と呼んだ） らイラ（夜） ヴァ
イエヒー（そしてあつた） エレヴ（夕が） ヴァ
イエヒー（そしてあつた） ヴォケル（朝が） ヨム
（日） エはツド（一つの日）

【英】 And God called the light, Day, and the darkness he

called Night: And the evening and the morning were
the first day.

【漢】 A 神名光者曰昼、暗者曰夜、有夕有朝。是

乃元日。

B 謂光為昼、謂暗為夜、有夕有朝、是乃首
日。

6 神、水中に空蒼あり、水と水との間を分けよといひしに、

【原】 ヴァヨメル（そして言った） エロヒーム（神は）
イエヒー（あれ） ラキア（大空が） ベトふ（の真中
に） ハマイム（水） ヴイヒー（そしてあれ） マヴ
デイーる（分けるものが） ベン（の間に） マイム
（水） らマイム（と水）

【英】 And God said, Let there be firmament in the midst of the waters, and let it divide the waters from the waters.

【漢】 神曰、水中宜有穹蒼、以分中上下之水上、

【原】 上帝曰、宜有穹蒼、使中上下之水相隔上。

7 神、空蒼を造り、空蒼の下の水と空蒼の上の水との間を分かち、斯なりき。

【原】 ヴァヤウス(そして造った) エロヒーム(神が) エット(を) ハラキア(大空) ヴァヤヴデる(そして分けた) ベン(の間) ハアイム(水) アシヨル(〜ところの) ミタはット(の下に) ララキア(大空) ウベエン(と〜の間を) ハマイム(水) アシエル(〜ところの) メアる(の上に) ラハラキア(大空) ヴアイエヒー(するところになった) ヘン(そのよう)

【英】 And God made the firmament; and divided the waters which were under the firmament, from the waters which were above the firmament; and it was so.

【漢】 神遂作穹蒼、使穹蒼以上之水、与穹蒼以下之水、截然中断上。於是有如レ此。

【原】 遂作穹蒼、而上下之水、截然中断、有如レ此也。

8 神、空蒼を天と名づけ、夕あり朝あり。第二日なり。

【原】 ヴァイクラー(そして呼んだ) エロヒーム(神は) ララキア(大空を) シヤマイム(天と) ヴアイエヒー(そしてあった) エレヴ(夕が) ヴアイエヒー(そしてあった) ヴォケル(朝が) ヨム(日) シエニー(第二の)

【英】 And God called the firmament, Heauen. And the evening and the morning were the second day.

【漢】 神名穹蒼曰天。有レ夕有レ朝、是乃二日。

【原】 上帝謂穹蒼為レ天。有レ夕有レ朝、是乃二日。

9 神、天の下の水は一処に集り、滙ける土は顕露べしといひ、斯なりき。

【原】 ヴァヨメル(そして言った) エロヒーム(神が) イツカヴー(そして現れよ) ハマイム(水が) ミタはット(の下に) ハシヤマイム(天) エる(に) マ

コム(所)ハはッド(一つの) イツカヴー(そして現れよ) ハヤバシヤー(乾いた地が) ヴアイエヒー(するところになった) ヘン(そのように)

【英】 And God said, Let the waters under the heaven be gathered together unto one place, and let the dry land appear: and it was so.

【漢】 A 神曰、天下之水宜_下匯_二区_一、使_レ現_三乾土_一。於_レ是_レ有_レ如_レ此。

B 上帝曰、天下諸水宜_下匯_二区_一、使_中陸地_上顯露_上。有_レ如_レ此也。

10 神、_{かわ}涸_ちける土を地となづけ、_{みづ}水の集_{あつ}りしを海と名_なづけ、_{これ}神之善_よしと視_みたり。

【原】 ヴアイクラー(そして呼んだ) エロヒーム(神は) ーラヤバシヤー(乾いた地を) エレツ(地と) ウレミクヴェ(また集まった所を) ハマイム(水の) カラー(呼んだ) ヤミーム(海と) ヴアヤル(そして見た) エロヒーム(神は) キー(〜(こと)を) トヴ(善)

【英】 And God called the drie land Earth: and gathering

together of the waters called he Seas: and God saw that it was good.

【漢】 A 神名_二乾土_一曰_レ地、水匯_レ曰_レ海、神觀_レ之_レ為_レ善。

B 謂_二陸地_一為_レ壤_二謂_二水匯_一為_レ海、上帝視_レ之_レ為_レ善。地は苗と種を結ぶ草と実_に核ある_に菓を結ぶ_に実の樹を其類に随_ひ地の上に萌_出せといひしに、斯_{なり}き。

【原】 ヴアヨメル(そして言った) エロヒーム(神は) タドウシエ(芽を出すように) ハアレツ(地は) デーシエ(若草を) エセウ(草を) マズリア(種を生じる) ゼラア(種を) エツ(木を) ペリ(実の) オーセ(作る) ペリ(実を) れミノー(その種類に従つて) アシエル(ところの) ザルオ(その種が) ヴォ(その中に) アる(の上に) ハアレツ(地) ヴアイエヒ(するとになった) ヘン(そのように)

【英】 And God said, Let the earth bring forth glass, the herb yielding seed, and the fruit tree yielding fruit after his kind, whose seed is in itself, upon the earth: and it was so.

【漢】 A 神曰、地宜_三萌_二菓_一、蔬_二結_レ實_一、樹_二生_レ果_一、果懷_レ核、

從^レ其類於地^一。於^レ是有^レ如^レ此。

【B】上帝曰、地宜^三生^レ草、蔬結^レ実、樹生^レ菓、菓懷^レ

核、各從^二其類^一。有^レ如^レ此也。

12 地は苗^ナと種^{タネ}を結^{むす}ぶ草^{クサ}其類^{シノカ}に隨^{したが}ひ、又^{また}実^ミに核^{クダモノ}ある菓^ミを結^{むす}ぶ
実^ミの樹^キを其類^{シノカ}に隨^{したが}ひて出^{いだ}せり。神^{カミ}、之^{これ}を善^よとみたり。

【原】ヴァトツエー(そして出した) ハアレツ(地は) デ

シェ(若草を) エセヴ(草) マスリア(種を生じる)

ゼラア(種を) レミニーフ(その種類に従って)

ヴェエツ(そして木を) オーセ(作る) ペリ(実を)

アシエル(ところの) ザルオ(その種が) ヴォ(そ

の中に) れミネーフ(その種類に従って) ヴアヤル

(そして見た) エロヒーム(神は) キー(〜ことを)

トヴ(善)

【英】 And the earth brought forth grass, and herb yielding

seed after his kind, and the tree yielding fruit, whose

seed was in it self, after his kind: and God saw that it

was good.

【漢】 地遂萌^三藥、蔬結^レ菓、從^二其類^一、樹生^レ果、果

懷^レ核、亦從^二其類^一。神觀^レ之為^レ善。

【B】地遂^レ草、蔬結^レ実、樹生^レ菓、菓懷^レ核、各從^二其

類^一。上帝視^レ之為^レ善。

13 夕^{ゆふ}あり、朝^{あさ}あり。第三日^{サントシツ}なり。

【原】ヴァイエヒ(そして〜あった) エレヴ(夕が) ヴア

イエヒ(そして〜あった) ヴォケル(朝が) ヨム

(日) シエリシー(第三の)

【英】 And the evening and the morning were the third

days.

【漢】 有^レ夕有^レ朝、是乃^三三日^一。

【B】有^レ夕有^レ朝、是乃^三三日^一。

14 神^{カミ}、昼^{ひる}と夜^{よる}との間^{あひだ}を分^{わか}つに、天^{そら}の空^{ひか}蒼^{あは}りに光^{ひか}りありて、驗^{しるし}の

ため、時節^{じせち}のため、

【原】ヴァヨメレル(そして言った) エロヒーム(神は)

イエヒー(あれ) メオロット(光る物が) ビレキア

(大空の中に) ハシャマイム(天の) れハヴアイル

(分けるために) ベン(の間と) ハヨム(昼) ウヴェ

ン(と〜との間を) ハライラ(夜) ヴエハユー(そ

して〜なれ) れオトツト(印に) ウれモアデーーム

(と季節のために) ウレヤミーム(と日々のために)

ヴェシヤニーム (七十年の)

【英】 And God said, Let there be light in the firmament of the heaven to divide the day from the night; and let them be for signs, and for seasons, and for days and years:

【漢】 神曰、天之穹蒼宜_下有_二列光_一、俾_四分_二昼夜_一、又為_二時日年之号_一、

【B】 上帝曰、穹蒼宜_下輝光衆著、以分_二昼夜_一、以定_二四時_一、以記_二年月_一、

15 日や年のため、天の空蒼に地を照す明りのためになるべしといひしに、斯なりき。

【原】 ヴェハユー (そしてなれ) リメオロット (光る物) に (ビレキア (大空の中で) ハシヤマイム (天の) れハイール (照らすために) アる (の上を) ハアレツ (地) ヴアイエヒ (するとした) ヘン (そのように)

【英】 And let them be for lights in the firmament of the heaven to give light upon the earth: and it was so.

【漢】 及由_二三天之穹蒼_一以照_二夫地_甲。於_レ是有_レ如_レ此。

【B】 光麗_二於天_一、以照_中臨於地_上。有_レ如_レ此也。

16 神、二つの大なる光りを造り、昼を司どるには大なる光り、夜を司どるには小なる光り、又星を造れり。

【原】 ヴェハユー (そして造った) エロヒーム (神は) エット (を) シエネー (二つの) ハメオロット (光る物) ハゲドリーム (大きな) エット (を) ハマオール (光る物) ハガドー (大きな) れメムシエレット (統治のために) ハヨム (昼間の) ヴエエト (またを) ハマオール (光る物) ハカトン (小さな) れメムシエレット (統治のために) ハらいら (夜の) ヴエエト (またを) ハコはヴィーム (星々)

【英】 And God made two great lights: the greater light to rule the day, and the lesser light to rule the night: he made the stars also.

【漢】 神造_二巨光_一、大者司_レ昼、小者司_レ夜、又造_二衆星_一、

【B】 上帝造_二大光_一、大以理_レ昼、小以理_レ夜、亦造_二星辰_一、

17 地を照らし、昼と夜とを司どり、明りと闇きとの間を分つ
ために
為に

【原】 ヴアイテン (そして与えた) オタム (それらを) エ
ろヒーム (神は) ビレキア (大空の中に) ハシヤマ
イム (天の) れハイール (照らすために) アる (の
上を) ハアレツ (地)

【英】 And God set them in the firmament of the heaven to
give light upon the earth.

【漢】 神置_二之於天之穹蒼_一、以照_三夫地_一。

【B】 置_二之穹蒼_一、照_三臨於地_一。

18 神、是等を天の空蒼におきて神之をよしとみたり。

【原】 ヴェリムシヨる (そして統治するために) バヨム
(昼間を) ウヴァライラ (また夜を) ウラハヴデイル
(また分けるために) ベン (の間) ハオール (光) ウ
ヴェン (ととの間を) ハハシエふ (闇) ヴアヤル
(そして見た) エロヒーム (神は) キー (〜ことを)
トヴ (善)

【英】 And to rule over the day and over the night and to
divide the light from the darkene - ss : and God saw

that it was good.

【漢】 俾_下司_二昼夜_一二分_中光暗_下。神觀_レ之為_レ善。

【B】 以理_三昼夜_一、以分_三明晦_一。上帝視_レ之為_レ善。

19 夕あり、朝あり。第四日なり。

【原】 ヴアイエヒ (そして〜あった) エレヴ (夕が) ヴア
イエヒ (また〜あった) ヴオケル (朝が) ヨム (日)
レヴィイ (第四の)

【英】 And the evening and the morning were the fourth
day.

【漢】 有_レ夕有_レ朝、是乃_四日。

【B】 有_レ夕有_レ朝、是乃_四日。

20 神、水は生ある動物をあまた生じ、又鳥は天の空蒼の面地
の上に飛べしといへり。

【原】 ヴアヨメル (そして言った) エロヒーム (神が) イ
シユレッツ (群がらせよ) ハマイム (水は) シエ
ツ (群がるものを) ネフェシユ (魂を) はヤー (生
きている) ヴエオフ (また鳥が) イエオフエフ (飛
ぶように) アる (の上に) ハアレツ (地) アる (の
上に) ペネー (表面) レキア (大空の) ハイヤマ

ム(天の)

【英】 And God said. Let the Waters bring forth about-dandy the moving creature that hath life, and fowl that may flie above the earth in the open firmament of heaven.

【漢】 神曰、水宜滋^三産有^レ生諸動物^一、又鳥可^下飛^二於^上天^一、戾^二於穹蒼^上。

【B】 上帝曰、水必滋生^三生物^一、鱗虫畢具、鳥飛^二於天^一、戾^二於穹蒼^上。

21 神、大なる魚と水のあまた生ずる処の生ある動物、みな其類に從ひ、又統ての飛鳥其類に從ひて造れり。神之をよしと視たり。

【原】 ヴアイヴラー(そして創造した) エロヒーム(神は) エット(を) ハタニニーム(海の怪物) ハゲドリーム(大きな) ヴエエット(と)を コる(すべての) ネフェシシュ(魂) ハはヤー(生き物の) ハロネセツト(這っている) アシエル(ところの) シヤレツター(群がらせた) ハマイム(水が) れミネヘム(彼らの種類に從つて) ヴエエット(また)を コる(すべて)

ての(オフ(鳥)カナフ(翼の)れミネヘム(その種類に從つて) ヴアヤル(そして見た) エロヒーム(神は) キー(と)を) トヴ(善い)

【英】 And God created great whales, and every living creature that moveth, which the waters brought forth abundantly, after their kind, and every winged foule after his kind: and God saw that was good.

【漢】 神乃造^前巨魚与^下水所^三滋生^二之物^上、鱗虫畢具、羽類^一以及^二飛鳥^一亦從^乙其類^甲。神觀^レ之^レ善。

【B】 遂造^下巨魚暨水中所^三滋生^二之物^上、鱗虫畢具、羽族各從^二其類^一。上帝視^レ之^レ善。

22 神、彼等を祝て、生め殖よ、海の水に充よ、鳥は地に生えよといひしに、

【原】 ヴアイエヴァレふ(そして祝福した) オタム(それらを) エロヒーム(神は) れモール(と言って) ペルー(産めよ) ウレヴー(また増えよ) エミるウー(また満ちよ) エット(に) ハマイム(水) バヤミーム(海の中の) ヴエオフ(そして鳥は) イーレヴ(増えるように) バアレツ(地に)

【英】 And God blessed them, saying, Be fruitful, and multiply, and fill the waters in the seas, and let fowl multiply in the earth.

【漢】 神祝^レ之、曰^下既庶既蕃、充^二物於海^一、鳥亦蕃^中息於地^上。

【B】 祝^レ之曰、生育衆多、充^二物於海^一、禽獸繁^二衍於地^上。

23 夕あり、朝あり。第五日なり。

【原】 ヴアイエヒ (そして) あつた) エレヴ (夕が) ヴアイエヒ (また) あつた) ヴオケル (朝が) ヨム (日) はミシシー (第五の)

【英】 And the evening and the morning were the fifth day.

【漢】 有^レ夕有^レ朝、是乃五日。

24 神、地は生物を其類に從ひ、生畜昆虫又走獸其類に從ひて出よといひしに、斯くなりき。

【原】 ヴアヨメル (そして) 言った) エロヒーム (神は) トツエー (出すように) ハアレツ (地は) ネフェシエ (魂を) はヤー (生きている) れミネナハ (その種類)

に從つて) ベヘマー (家畜) ヴアレメス (と) 這うもの) ヴエはイトー (と) 生き物を) エレツ (地の) れミネナハ (その種類に從つて) ヴアイエヒ (すると) なつた) ヘン (そのように)

【英】 And God said, Let the earth bring forth the living creature after his kind, cattl, and creeping thing, and beast of the earth after his kind: and it was so.

【漢】 神曰、地宜産^下有生諸物^一從^二其類^一。牲畜昆虫及野之獸各從^中其類^上。於^レ是有^レ如此。

【B】 上帝曰、地宜^三生物六畜昆虫走獸各從^二其類^一。有^レ如此也。

25 神、地の獸畜その類に從ひ、生畜獸畜其類に從ひ、土の昆虫皆其類に從ひて造れり。神之をよと視たり。

【原】 ヴアヤアス (そして) 造つた) エロヒーム (神は) エツト (を) はヤツト (生き物を) ハアレツ (地の) れミネナハ (その種類に從つて) ヴエエツト (また) (を) ハベヘマー (家畜) れミネナハ (その種類に從つて) ヴエエツト (また) (を) コる (すべて) の) レメス (這うもの) ハアダマー (土を) れミネナハ

(その種類に従つて) ヴアヤル(そして見た) エロ
ヒーム(神は) キー(ことを) トヴ(善い)

【英】 And God made the beast of the earth after his kind, and cattle after their kind, and every thing that creepeth upon the earth after his kind: and God saw that it was good.

【漢】 A 神乃造下野之獸、從其類、牲畜從其類、及凡土地之昆虫從其類。神觀之為善。

B 遂造獸与三畜及虫、各從其類。視之為善。

26 神曰、吾々の像に吾々の姿の如く人を造らん。彼らは海の魚と天の鳥と生畜と全地と地上に匍匐とところの昆虫とを皆治理んといひしに、

【原】 ヴアヨメル(そして言った) エロヒーム(神は) ナアセー(私達は造ろう) アダム(人を) ベツアアるメーヌ(私達の像に) キドウムテーヌ(私達の似姿に) ヴエイルドゥー(そして彼等は治める) ヴイドウガット(魚) ハヤム(海の) ウヴェオオフ(と鳥を) ハシヤマイム(天の) ウヴァベヘム(と家畜) ウヴェほるハアレツ(そして全地を) ウヴェほる

(そしてすべての) ハレメス(這うものを) ハロメス(這っている) アル(の上を) ハアレツ(地)

【英】 And God said, Let us make man in our Image, after our likeness: and let them have dominion over the fish of the sea, and over the fowl of the air, and over the cattle, and over the earth, and over every creeping thing that creepeth upon the earth.

【漢】 A 神曰、我儕宜造人、肖我儕之像、俾再治海

魚飛鳥牲畜、亦治之乎全地、及凡匍地之昆虫。

B 上帝曰、宜造人、其像象我儕、以治海魚飛鳥六畜昆虫、亦以治中理乎地。

27 神己の像に人を造り、神の像に是を造り、彼等を男女に造れり。

【原】 ヴアイヴラー(そして創造した) エロヒーム(神は) エット(を) ハアダム(人) ベツアアるモー(自分の像に) ベツェレム(像に) エロヒーム(神の) パラー(創造した) オトー(それを) ザはル(男性) ウネケヴァー(と女性に) ハラー(創造した) オタム(彼等を)

【英】 So God created man in his own image, in the image of God created he him: male and female created he them.

【漢】 A 神乃依己像造人、造之肖神之像、且造之男女焉。

【B】 遂造人、維肖乎己、象上帝像、造男造女。彼等を祝みて、神、彼等に曰、生殖よ、地にみたせよ、之を従はせよ、又海の魚と天の鳥と地の上に匍匐ところの生物を皆統轄よ。

【原】 ヴァイエヴァアレふ（そして祝福した）オタム（彼ら）を（エロヒーム（神は）ヴァヨメル（そして言った）らへム（彼らに）エロヒーム（神は）ベルー（産めよ）ウレヴー（また増えよ）ウミるウー（また満ちよ）エツト（に）ハアレツ（地）ヴェヒヴシユーハ（そしてそれを征服せよ）ウレドゥー（また治めよ）ビドゥガツト（魚を）ハヤム（海の）ウヴェオフ（と鳥を）ハシヤマイム（空の）ウヴェほる（とすべての）はヤー（生き物を）ハロメセツト（這っている）ア（の上を）ハアレツ（地）

【英】 And God blessed them, and God said unto them, Be fruitful, and multiply, and replenish the earth, and subdue it: and have dominion over the fish of the sea, and over the fowl of the air, and over every living thing that moveth upon the earth.

【漢】 A 神祝之、又謂之曰、生育衆多、滿盈於地、爾克治之、並治海魚、飛鳥、及地上有生諸動物。

【B】 且祝之曰、生育衆多、昌熾於地、而治理之、以統轄海魚、飛鳥、及地之昆虫。又曰、みよ全地の面にある種を結ぶ草の種類と樹の核を結ぶ実のある樹を皆汝等に与へり。汝等には食となるべし。

【原】 ヴァヨメル（そして言った）エロヒーム（神は）ヒネ（見よ）ナターテイ（私は与えた）らへム（お前達に）エツト（を）コる（すべての）エセヴ（草を）ゾレア（種まく）ゼアラ（種を）アシエル（ところ）の（の上に）ペネー（表面）ほるハアレツ（全地の）ヴェエツト（そして）を（を）コる（すべて

の(ハエツ(木)アシエル(ところの)ポー(その中に)フェリ(実が)エツ(木の)ゾレア(種まく)ザラア(種を)らへム(お前達に)イフイエー(それはなる)れオふらー(食用に)

【英】 And God said, Behold, I have given you every herb bearing seed, which is upon the face of all the earth, and every tree, in the which is the fruit of a tree yielding seed: to you it shall be for meat.

【漢】 A 神曰、視哉、遍地結_レ蒴之蔬、懷_レ核之樹果、我賜_レ爾以爲_レ食。

B 上帝曰、予_二汝所_レ食者、地結_レ実之菜蔬、懷_レ核之樹菓_一。

30 又_二地_一の走_レ獣と天_一の鳥類と地_一の上_一の昆虫_一都ての命_一のある物_一には食_一の爲_一に都ての青草_一を与へて、期_一なりき。

【原】 ウレほる(しかしすべてのに)はヤツト(生き物)ハアレツ(地の)ウレほる(とすべてのに)オフ(鳥)ハシヤマイム(空の)ウレほる(とすべての)にロメス(這うもの)アる(の上を)ハアレツ(地)アシエル(ところの)ポー(その中に)ネフェ

シユ(魂が)はヤー(生きている)エツト(を)コる(すべての)イエレク(青草が)エセヴ(草)れオふらー(食用に)ヴァイエヒ(するとく_二な_一つた)へン(そのように)

【英】 And to every beast of the earth, and to every fowl of the air, and to every thing that creepeth upon the earth, wherein there is life, I have given every green herb for meet: and it was so.

【漢】 A 至_二地_一之獸、天空之鳥、及匍_レ地諸生物_一、則賜_レ以_二青草_一爲_レ食。於_レ是有_レ如_レ此。

B 亦以_二草葉_一予_二走_レ獣飛鳥昆虫_一、生物食_レ之。有_レ如_レ此也。

31 神_一、都て造_レせし_二処_一を視_レしに、みよ最_一よかりけり。夕_一あり、朝_一あり。第六日なり。

【原】 ヴァヤル(そして見た)エロヒーム(神は)エツト(を)コる(すべてのもの)アシエル(ところの)アサー(彼が造つた)ヴェヒネ(そして見よ)トヴ(善い)メオッド(非常に)ヴァイエヒ(そして)あつた)エレヴ(夕が)ヴァイエヒ(またあつた)

ヴォケル(朝が) ヨム(日) ハシシー(第六の)

【英】 And God saw every thing that he had made, and beheld, it was very good. And the evening and the morning were the sixth day.

【漢】 神觀^三所^レ造者^二甚善。有^レ夕有^レ朝、是乃六日。

【B】 上帝視^三所^レ造者^二甚悉善。有^レ夕有^レ朝、是乃六日。

2-1-2 第一章の検討

日本語訳を構成する各節の文成分を、ヘブライ語の原文・英訳・漢訳と対応させると、そのすべてと一致するものは除くと、次のような場合がある。

原文にだけあるもの、あるいは原文の表現とだけ一致するもの

4節「明りと闇きとの間を分ちたり」

6節「水と水との間を分けよ」

7節「空蒼の下の水と空蒼の上の水との間を分ちて」

14節「昼と夜との間を分つに」

17節「明りと闇きとの間を分つ」

これら「XとYとの間」という訳は、原文の「ベン(間)・X・ウヴェン(と)の間の」・Y」の直訳であろう。例え

ば4節を英訳「the light from the darkness」から訳すれば「闇きから明りを分ちたり」となり、漢訳「分^三光暗」から訳すれば「明りと闇きとを分ちたり」となり、特に「XとYとの間」といった訳文にはならないと考えられるからである。また、28節「地の上に匍匐ところの生物」の「匍匐ところの」という訳も原文の「ハロメセツト(這っている)」から訳されたものである。英訳は moveth、漢訳は【A】「動物」、【B】「昆虫」である。さらに31節の「みよ」は原文の「ヴェヒネ」を訳したものである。英訳漢訳にはない。

原文および英訳と一致するもの

2節の「地は形なく空かりき」の「形なく」は、原文

(トフー) また英訳 without form と対応するが、漢訳【A】

【B】の「虚曠」には対応しない(「正字通」「曠、空也、虚也」)。

同じ2節の「淵の面上に」と「水面の上に」の「の上に」

は原文「ア^三る(の上に)」、英訳 upon に対応する。漢訳が

「水面の上に」の「の上に」を訳さなかったのは、【A】は神靈が

「水面」を「覆育」(覆い育てる)と訳し、【B】は「水面」を「照

育」(暖め育てる)と訳したことによるのであろう。日本語訳の「掩ひ居たり」という訳は【A】に拠るものと考えられるが、そ

の場合には不必要と思われる「の上に」が訳されているのは、原文に「神の霊が水の面の^上を飛び回っていた」とあることによるものと思われる。また、29節の「^{ぜんち}全地の面^{おもて}にある」は原文の「ア^アる（の上に）ベネー（表面）ほるハアレツ（全地の）」あるいは英訳の「upon the face of all the earth」と一致する。30節の「^{ちうへん}地の上の」も同様である。

原文および漢訳と一致するもの

5節「夕^{ゆふ}あり朝^{あさ}あり」。原文は「らいら（夜）ヴァイエヒー（そして）あつた）エレヴ（夕が）ヴァイエヒー（そして）あつた）ヴォケル（朝が）」であり、漢訳も「有^あ夕有^あ朝」であるが、英訳は「the evening and the morning were」であり、直訳すれば「夕と朝があつた」である。8、13、19、23、31節も同じ。

英訳および漢訳と一致するもの

5節の「第一日なり」は原文では単に「一日」とあるだけであつて、英語の the first day また漢訳の「元日」「首日」といった序数詞の言い方ではない。

漢訳とだけ一致するもの

前述のように2節「^{おほ}掩^ほ居^ゐたり」は漢訳の「^{おほ}覆^{おほ}育」との関わ

りが考えられる。原文は「飛び回っていた」、英訳も moved である。24・25・26・30節の「^{こんちゆう}昆虫」も漢訳と一致する。原文は「ロメス（這うもの）」である。ちなみに明治十六年刊『創世記』には「^{はふも}昆虫」とあるが、「^{はふも}昆」は「多い」の意味であり、「はふ」の意味はない。また、明治時代の国語辞典には「^{ちゆう}虫」の語を載せるものは少ないが、『言海』（明治二十二年刊）には「^{ムシ}虫」、「新編漢語辞林」（明治三十七年刊）には「ムシケラ」とある。金沢庄三郎の『辞林』（明治二十二年刊）には「おおくのむし。すべてのむし」と動物学における「^{はふも}昆虫類」の説明がある。したがって、「^{はふも}昆虫」は日本語訳の「はふもの」に漢訳聖書に用いられている「^{はふも}昆虫」の漢字を当てただけのものであり、本来の日本語訳と直接に関わるものではない。1節の「元始」「創造」、9節の「^{はふも}顕露」、10節の「^{はふも}視」なども同様に考えられるが、このことについては後述する「まとめ」の項）。

なお、15節の「^ひ日や年のため」……といひしに」は原文・英訳・漢訳では14節にあり、原文と厳密には対応していないのは、ヘブライ語・英語・中国語と日本語の統語法の違いによる処置であつたと思われる。17節と18節なども同様である。この

ような場合は二節全体での訳の対応を考えるべきであらう。

2-2-1 第二章の訳文

1 かくて天と地および其軍勢みな造られたり。

【原】 ヴアイエふるー（そして完成された）ハシヤマイム
（天）ヴェハアレツ（と地が）ヴェほる（とすべて
の）ツエヴァアム（それらの軍勢が）

【英】 Thus the heavens and the earth were finished, and all
the host of them.

【漢】 夫如是、天地及其衆軍咸備。

【B】 天地万物既成。

2 神、第七日に其造りし業を終へて第七日に都べて其造りし業
を息めり。

【原】 ヴアイエはる（そして完成した）エロヒーム（神は）
バヨム（日に）ハシエヴィイー（第七の）メラふ
トー（彼の作業を）アシエル（ところの）アサー
（彼が造った）ヴァイシユボット（そして休んだ）バ
ヨム（日に）ハシエヴィイー（第七の）ミコる（す
べてから）メラふトー（彼の作業の）アシエル（と

ころの）アサー（彼が造った）

【英】 And on the seventh day God ended his work, which
he had made : And he rested on the seventh day
from all his work, which he had made.

【漢】 至第七日、神已竣其所造之工。則於第七日、
乃息其凡所造之工而自安。

【B】 七日上帝工竣、乃息息。

3 よりて、神、第七日をめぐみて之を聖日となせり。此日に神
は作りて創造せし都べての業を息みし故なり。

【原】 ヴアイエヴァレふ（そして祝福した）エロヒーム
（神は）エツト（を）ヨム（日）ハシエヴィイー（第
七の）ヴァイエカデシユ（そして聖別した）オトー
（それを）キー（なせなら）ヴォ（その日に）シャ
ヴァト（彼が休んだ）ミコる（すべての）から）メ
ラふトー（彼の作業）アシエル（ところの）バラ
（創造した）エロヒーム（神が）らアソート（造るた
めに）

【英】 And God blessed the seventh day, and sanctified it :
because that in it he had rested from all his work.

which God created and made.

【漢】**A** 因下是日神息^三其凡所^レ造所^レ作之工^二而自安上[、]故祝^二七日^一為^二聖日^一。

【B】是日上帝畢其事而安息、故以七日為聖日、而錫𦉳焉。

4 エホバ神、天地と未だ地にあらざる原の都^すべての草^{くも}と^いまだ萌^もび^びざる原の都^すべての青物^{あそもの}を造^{つく}りし日、則^{すなわち}その創造^{きざら}せられし時^{とき}

【原】エーレ(これらが)ト^るドット(由来)ハシヤマイム(天)ヴェハアレツ(と地)のベヒバルアム(それらが創造された時)ベヨム(日に)アソツト(造った)アドナイ(主が)エロヒーム(神)エレッ(地)ヴェシヤマム(と天を)

【英】These are the generations of the heavens and of the earth, when they were created, in the day the LORD God made the earth and the heavens.

【漢】**A** 創^二造天地^一、其略如^レ左。○耶和華神創^二造天地^一之日。

【B】(4・5) 耶和華上帝既造^二天地^一、其略如^レ左。

始造之日、野不^レ生^レ草不^レ植^レ蔬、耶和華上帝未^レ降^二霖雨^一、其時耕作尚無^レ人也。

* 4・5 節の内容が合わされた形であることに ついては後述。

5 此等^{これら}は天と地とのなり立なり。蓋^{たがひ}エホバ神いまだ地^ちの上に雨^{あめ}を降^ふさず、又原^{はら}を耕^{たがへ}す人もあらず。

【原】ヴェほる(そしてすべての)スイアは(低木は)ハサデー(野)のテレム イフイエ(まだ無かった)ヴァアレツ(地に)ヴェほる(またすべての)エセブ(草)ハサデー(野)のテレム イツマは(また芽生えてなかった)キー(なぜなら)ローヒム テイル(雨を降らさなかった)アドナイ(主が)エロヒーム(神)ア^る(の上に)(ハアレツ地)ヴェアダム(またアダムが)アイン(いなかった)らアヴ^{トド}(耕するための)エツト(を)ハアダマー(土地)

【英】And every plant of the field, before it was in the earth, and every herb of the field before it grew: for the Lord God had not caused it to rain upon the earth, and

there was not a man to till the ground.

【漢】 雜時、土未^レ生^ニ草木^一未^レ苗^ニ諸^ノ蔬^一、因^下耶和華^ノ神

未^レ降^ニ雨^一於^レ地^一、亦未^中有^レ人^上耕^レ田^一。

【B】 *前出。

【C】 時各田之栽植未在地之前。連各田之草未生之前已

被神造。蓋神主未曾使雨下地上而無人以耕田。

6 惟霧地より起りて地の全面を潤せり。

【原】 ヴエエツド (そして水蒸気が) ヤハレ一 (上がって

いた) ミン (から) ハアレツ (地) ヴエヒシユカー

(そして潤していた) エツト (を) コる (すべてを)

ベネ一 (表面の) ハアダマー (土地の)

【英】 But there went up a mist from the earth, and watered

the whole face of the ground.

【漢】 惟霧由^レ地起^ニ、遍^ニ潤^ニ土^一壤^一。

【B】 於是、霧由^レ地出^ニ、以^レ潤^ニ土^一壤^一。

7 エホバ神、地の塵にて人を造り、其鼻の穴に命の息を吹き

いれて、人は生ける魂になりぬ。

【原】 ヴアイツエル (そして形造った) アドナイ (主は)

エロロヒーム (神) エツト (を) ハアダム (人) ア

ファル (塵) ミン (から) ハアダマー (土) ヴアイ

パは (そして吹き込んだ) ベアバヴ (彼の鼻の中に)

ニシユマツト (息吹を) はイーム (命の) ヴアイエ

ヒ (するととなった) ハアダム (人は) レネフェエシユ

(魂に) はヤー (生ける)

【英】 And the Lord God formed man of the dust of the

ground, and breathed into his nostrils the breath of

life; and man became a living soul.

【漢】 耶和華神以^ニ地塵^一造^レ人^一、嘘^ニ生^ニ氣^一入^ニ其^ノ鼻^一、而

人成^ニ生^一靈^一。

【B】 耶和華上帝搏^レ土^一為^レ人^一、嘘^レ氣^一入^レ鼻^一、而人成^ニ血

氣^一之^一人^一。

8 エホバ神、イヒゼンの東に園を植えて其処に造りし人をお

けり。

【原】 ヴアイタア (そして植えた) アドナイ (主は) エロ

ヒーム (神) ガン (園を) ベエデン (エデンに) ミ

ケテム (東の方に) ヴアヤーセム (そして置いた)

シヤム (そこに) エツト (を) ハアダム (人) ア

シユセル (ところの) ヤツアル (彼が形造った)

【英】 And the Lord God planted a garden eastward in Eden : and there he put the man whom he had formed.

【漢】 A 耶和華神樹園於東方之埃田^一、以^二所^レ造之人^一置^二諸其間^一。

【B】 有^レ園^二於埃田^一、乃耶和華上帝所^レ樹者、以^三所^レ造之人^一置^二於其間^一。

9 エホバ神、^{諸々の見るに美しく食ふによき樹と園の中に生命の樹と善悪を知るの樹を地より生ぜさせり。}

【原】 ヴアヤツマは(そして芽生えさせた) アドナイ(主)は(エロヒーム(神)ミン(から) ハアダマー(土)コる(すべての) エツ(木) ネふマッド(好ましい)れマルエー(見るのに) ヴェトヴ(そして善い) れマアはる(食べるのに) ヴェエツ(そして木を) ハはイーム(命の) ベトぶ(の中央に) ハガン(その) ヴェエツ(と木を) ハダアット(知るための) トヴ(善) ヴアラア(と悪を)

【英】 And out of the ground made the Lord God to grow every tree that is pleasant to the sight and good for

food : the tree of life also in the midst of the garden, and the tree of knowledge of good and evil.

【漢】 A 耶和華神使^三可^レ觀可^レ食諸樹、由^レ地發生、當^三園之中^一、有^二生命之樹^一、又有^下別^二善惡^一之樹。

【B】 耶和華上帝使^下地生^レ木、食可^レ適^レ口、觀可^上娛樂^レ目、當^三園之中^一、有^二生命之樹^一、亦有^下別^二善惡^一之樹^上。

10 又河園を潤すにイヒテンよりいで彼処より別れて四の源になりぬ。

【原】 ヴエナハル(そして川が) ヨツエー(出ていた) メエデン(エデンから) れハシユエツト(潤すために) エツト(を) ハガン(園) ウミシヤム(そしてそこから) イパレッド(分かれる) ヴェハヤー(そして) れアルバアー(四つの) ラシーム(源)

【英】 And a river went out of Eden to water the garden : and from thence it was parted, and became into four heads.

【漢】 A 埃田有^レ河、流出以^レ灌^二其園^一、由^レ彼派分為^二四^一。

【B】 埃田有^レ河、流入^二於園^一、可^二資灌漑^一、中分四支。

11 其^{その}一^{いつ}の名^なはピソ^ン、金^{きん}のあるハビラ^ラの全^{ぜん}地^ちを環^{めぐ}るものは是^{こゝ}なり。

【原】 シエム(名は) ハエはツド(一つの) ピシエン(ピシエン) フー(それは) ハソヴェヴ(巡っているもの) エット(を) コる エレッツ(全地) ハはヴィラー(ハビラの) アシユル(ところの) シヤム(そこに) ハザハヴ(金が)

【英】 The name of the first is Pison: that is it which compasseth the whole land of Havilah, where there is gold:

【漢】 A 一曰^一比遜^二、濼^三洄於哈腓拉^四方^一、其地產^レ金。

B 一曰^二比遜^一、環流^三於哈腓拉^二、其地產^レ金。

12 其^{その}國^{くに}の金^{きん}はよし。そこ^{こゝ}にハブドラと碧玉^{へきぎよく}あり。

【原】 ウザハヴ(そして金は) ハアレツ(地の) ハヒー(その) トヴ(善い) シヤム(そこに) ハベドラは(ブドラフ) ヴエエヴェン(と石) ハシヨハム(シヨハム(の))

【英】 And the gold of that land is good: There is bdellium and the onyx stone.

【漢】 A 其金最精、亦產^二珍珠乳^一一香詔碧玉^二。

B 其金最精、亦產^二珍珠碧玉^一。

13 其^{その}二^にの河名^{かわな}はギホン、クシ^ラの全^{ぜん}地^ちを環^{めぐ}るものは是^{こゝ}なり。

【原】 ヴエシエム(また名は) ハナハル(川の) (ハシエニー)(第二の) ギほん(ギホン) フー(それは) ハソヴェヴ(巡っているもの) エット(を) コる エレッツ(全地) クーシユ(クシユの)

【英】 And the name of the second river is Gihon: the same is it that compasseth th whole land of Ethiopia

【漢】 A 二曰^二其訓^一、濼^三洄於古夷^四方^一。

B 二曰^二其訓^一、環^三流於古夷^二。

14 其^{その}三^のの河名^{かわな}はヒテケル、アシル^ラの東^{ひがし}へ流^{なが}るものは是^{こゝ}なり。

其四^{その}の河^{かわ}ビラタ

【原】 ヴエシエム(また名は) ハナハル(川の) ハシエリシー(第三の) ひデケル(チグリズ) フー(それは) ハホレふ(行っているもの) キドウマツト(東の方に) アシユール(アシユルの) ヴエハナハル(そして川は) ハレヴィイー(第四の) フー(それは) フェラット(ユーフラテス)

【英】 And the name of the third river is Hiddekel: that is it which goeth toward the East of Assyria: And the fourth river is Euphrates.

【漢】 A 三日^三希底結^二、流^二於^二亞述東^一。四日^二百辣^一。

B 三日^二希底結^一、流^二於^二亞述東^一。四日^二百辣^一。

15 エホバ神、耕し守らんが為に人を連れ来てイヒデンの園に之を置けり。

【原】 ヴアヤニヘーフ(そして彼を置いた) ヴエガン(園の中に) エデン(エデンの) れオウダハ(それを耕すため) ウレシヨムハラハ(またそれを守るために)

【英】 And the Lord God took the man, and put him into the garden of Eden to dress it and to keep it.

【漢】 A 耶和華神掣^二其人^一、置^二於^二埃田園^一、以^二耕守^レ之。

B 耶和華上帝掣^二其人^一、置^二埃田園^一、使^二之栽植^一、使^二之防守^一。

16 エホバ神、アダムに命じて曰、園の都ての樹心に任せて食ふべし、

【原】 ヴアイエツアヴ(そして命じた) アドナイ(主は) エロヒーム(神) アる(に) ハアダム(人) れモー

ル(と言つて) ミコる(すべてから) エツ(木の) ハガン(園の) アはる トヘル(お前は大いに食ふべし)

【英】 And the Lord God commanded the man, saying, Of every tree of the garden thou mayest freely eat:

【漢】 A 耶和華神諭^二其人^一曰、園中諸樹之果、爾可^二任意^一以^レ食。

B 命^二其人^一曰、園之菓実。任意可^レ食。

17 唯善悪を知るの樹食ふべからず、蓋汝此を食ふ日には死ぬべし。

【原】 ウメエツ(しかし木から) ハダアット(知識の) トヴ(善) ヴアラア(と悪と) ろー トはる(お前は食べるな) ミメヌ(それから) キー(なぜなら) ベヨム(日に) アはるはー(お前が食べる) ミメヌ(それから) モット タムート(お前は必ず死ぬ)

【英】 But of he tree of the knowledge of good and evil, thou shalt not eat of it: for in the day that thou eatest thereof, thou shalt surely die.

【漢】 A 惟別^二善悪^一樹、爾不^レ可^レ食、食之日必死。

【B】 惟別^ニ善惡^ニ之樹、不^レ可^レ食、食^レ之^日、必死。
又曰、人の独居は宜しからず。是が為^ニに吾それに協^ニ助^ニのものを造らんと。

【原】 ヴアヨメル(そして言った) アドナイ(主は) エロヒム(神) ろー トヴ(善くない) ヘヨット(いることは) ハアダム(人が) れヴァドー(彼ひとり) で) エエセハ(私は彼女を造ろう) ろー(彼のために) エゼル(助け手を) ケネグドー(彼と向き合う者としての)

【英】 And the Lord God said, It is not good that the man should be alone: I will make him an help meet for him.

【漢】 耶和華神又曰、人独処未^レ善、我将^ニ為^レ之^作レ偶以助^レ之。

【B】 耶和華上帝曰、不^レ可^レ使^ニ夫人独処、必造^ニ一相助^ニ為^レ理者。

19 エホバ神、土をもて原の都べての獸畜と天の都べての鳥を造りて其を何名付るかを見んとて、アダムへ牽て来れり。アダム生物に名づけしは其こそ各々の名にはあれ。

【原】 ヴアイエル(そして形造った) アドナイ(主は) エ

ろヒム(神) ミン(から) ハアダマー(土) コる(すべての) はヤット(生き物) ハサデー(野の) ヴエエット(とくを) コる(すべての) オフ(鳥) ハシヤマイム(空の) ヴアヤヴー(そして連れてきた) エる(に) ハアダム(人) りルオット(見るために) マー(何と) イクラー(彼が呼ぶ) ろー(それを) ヴエほる(そしてすべてが) アシエル(ところの) イクラー(呼ぶ) ろー(それを) ハアダム(人が) ネフェエシュ(魂) はヤー(生きている) フー(それが) シエモー(その名)

【英】 And out of the ground the Lord God formed every beast of the field, and every fowl of the air, and brought them unto Adam to see what he would call them: and whatsoever Adam called every living creature, that was the name thereof.

【漢】 耶和華神以^レ土造^ニ田之諸獸、天空之諸鳥一率、至^ニ亞当前、視^ニ其称以^ニ何名、依^ニ亞当所^レ名諸生物、而其名乃定。

【B】 耶和華上帝搏^レ土為^ニ走獸、飛鳥、率^レ之至^ニ亞当

前、視^三其称以^二何名^一、以^三亜当^レ所^レ称之^二百物^一、
而其名乃定。

20 アダム^サすべての生畜^{せいしゆく}と天^{てん}の鳥^{とり}と原^{はら}の都^すべての獸畜^{けもの}を名付^{なづ}けし
かどもアダム^サには之^{これ}に協^{かた}ふ助^{たす}けのものを見^みいださざりき。

【原】 ヴァイクラー (そして呼んだ) ハアダム (人は)
シエモット (名を) れはる (すべて) ハベヘマー
(家畜) ウレオル (と鳥) ハシヤマイム (空の) ウレ
はる (とすべての) はヤット (生き物) ハサ
デー (野の) ウレウダム (しかしアダムに) ろー
マツァー (彼は見つけなかった) エゼル (助け手)
ケネグドー (彼に向き合う人としての)

【英】 And Adam gave names to all cattle, and to the fowl of
the air, and to every beast of the field: but for Adam
there was not found an help meet for him.

【漢】 ア^レ亞^レ當^レ於^二諸^レ牲^レ畜^一、飛^レ鳥^一、及^二田^レ之^レ諸^レ獸^一、各^レ命^レ以^レ名。
惟^レ亞^レ當^レ無^レ偶^レ以^レ助^レ之^一。

【B】 亞^レ當^レ於^二三^レ六^レ畜^一、飛^レ鳥^一、走^レ獸^一、各^レ命^レ以^レ名。惟^レ亞^レ當^レ
無^レ相^レ助^レ為^レ理^レ者^一。

21 エホバ^ト神^{カハ}、アダム^サに甘^{うまい}睡^{させ}させ、寐^{ねい}入^りりし時^{とき}、其^{その}脇^{わき}肋^{ばね}の^{ひと}一つを
取^とりて其^{その}代^かりに肉^{にく}をふさぎぬ。

【原】 ヴァヤ^レベ^レる (そして落^おとした) アド^レナイ (主^は) エ
ろ^レヒーム (神) タル^レデ^レマー (深い眠^いりを) ア^レる (の
上^じに) ハ^レア^レタム (人) ヴァ^レイ^レシヤ^レン (すると彼は
眠^いった) ヴァ^レイ^レカ^レは (それで彼は取^とった) ア^レは^レツト
(一つを) ミ^レツ^レア^レる オ^レタ^レヴ (彼の肋^{わき}骨^{ほね}の中^{なか}から) ヴァ
イ^レス^レゴル (そして閉^しじた) パ^レサル (肉^{にく}を) タ^レフ^レテ
ー ナ (その代^かわりに)

【英】 And the Lord God caused a deep sleep to fall upon
Adam, and he slept: and he took one of his ribs, and
closed up the flesh instead thereof:

【漢】 ア^レ耶^レ和^レ華^レ神^レ令^二亞^レ當^レ酣^レ寝^一時^{とき}、神^{カハ}取^と其^{その}脇^{わき}肋^{ばね}之^の一^{ひと}、而
寔^し以^レ肉^{にく}。

【B】 耶^レ和^レ華^レ上^レ帝^レ乃^レ令^二亞^レ當^レ酣^レ睡^一、取^と其^{その}一^{ひと}脇^{わき}骨^{ほね}、弥^よ
縫^ぬ其^{その}肉^{にく}。

22 エホバ^ト神^{カハ}、アダム^サより取^とりし脇^{わき}肋^{ばね}を女^{おんな}に造^{つく}りて是^{これ}をアダム^サ
に連^つ来^られり。

【原】 ヴァ^レイ^レヴ^レエン (そして組^{くみ}立^たてた) アド^レナイ (主^は)

エロヒーム(神) エット(を) ハツエラア(その肋骨) アシエル(〜ところの) ラカは(彼が取った) ミン(から) ハアダム(人) レイシャー(女に) ヴアイエヴィエーハ(そして彼女を連れてきた) エ(に) ハアダム(人)

【英】 And the rib, which the Lord God had taken from man, made he a woman, and brought her unto the man.

【漢】 A 耶和華神以三所レ取之肋、造レ之為レ女、携就二亜当。| B 以三所レ取之肋骨一成レ女、率至二亜当前。

23 アダムいはく、是は今吾骨のほね、吾肉のにくなり。此れ

男より取りし物なれば女と名付けぬ。

【原】 ヴアヨメル(すると言った) ハアダム(人は) ゴット(これは) ハバアム(今度こそ) エツェム(骨) メアツアマイ(私の骨からの) ウヴァサル(また肉) ミベサリ(私の肉からの) れゾット(これに) イカレー(呼ばれる) イシャー(女と) キー(なぜなら) メイーシュ(男から) るコは(取られた) ゴット(これは)

【英】 And Adam said, This is now bone of my bones, and flesh of my flesh : she shall be called Woman, because she was taken out of Man.

【漢】 A 亜当曰、是乃我骨之骨、我肉之肉、以三其由男取出、可二称レ之為レ女。| B 亜当曰、是為二我百骸中之一骨、全体中之一肉、彼由レ男出、必称為レ女。

24 故人その父母を離れて其妻に付き彼等は一体となるべし。

【原】 アる ケン(このゆえに) ヤウゾウ(離れる) イーシュ(男は) エット(を) アヴィヴ(彼の父) ヴエエット(と)を) イモー(彼の母) ヴエダヴァク(そしてくっつく) ベイシュト(彼の妻に) ヴエハー(そして彼らはくなる) れヴァサル(肉に) エはッド(一つの)

【英】 Therefore shall a man leave his father and his mother, and shall cleave unto his wife : and they shall be one flesh.

【漢】 A 是以人宜下離二父母、好二合其妻、二者即为中一体上。

【B】若し是人可下離^二父母^一、膠^二漆其妻^一、成^中為^上一体^上。
25 其夫婦の二人裸なるも恥る事なし。

【原】ヴァイフユー（そして〜であった）シエネヘム（彼ら二人は）アルミーム（裸の）ハアダム（人）ヴェイシュトー（と彼の妻は）ヴローイトウボシヤーシユー（しかし彼らは互いに恥ずかしがらなかつた）
【英】 And they were both naked, the man and his wife, and were not ashamed.

【漢】A 夫婦二人並裸、亦無^レ愧焉。

B 亜当与^レ妻並裸、亦無^レ愧焉。

2-2-2 第二章の検討

前章と同じように、第二章の日本語訳を原文・英訳・漢訳と比較すると、節を構成する成分の訳語には次のような場合がある。

原文とだけ一致するもの

12節の寶石名「ハブドラ」は原文の音訳のままである。

原文および英訳と一致するもの

10節の「彼処より別れて四の源になりぬ」。原文、英訳とも四つの川の「源」であること述べているが、漢訳Aの「由^レ彼派分^レ為^レ四」、Bの「中分四支」は四つに分岐したことをだけ言う。また、21節の「其代りに肉をふさぎぬ」の「其代りに」は、原文の「タふテーナ（その代わりに）」英訳の「stead」に対応するが、漢訳にはない。さらに3節の「今」も原文に「ハバアム（今度こそ）」とあり、英訳にも「now」とあるが、漢訳にはない。

英訳とだけ一致するもの

3節の「めぐみて」は本来「祝福して」と訳すべきものであるが、Bessには「恵む」の意味もあり（例、God lessed him with good health. 神は彼に健康を恵んだ）、日本語の用い方を誤ったのであろう

漢訳とだけ一致するもの

3節の「聖日」、12節の「碧玉」、21節の「甘睡」などは漢訳によるものであろう。また、各節全体が漢訳の訓読を参考に整えられたと考えられるものが多い。6節「惟霧地より起りて地の全面を潤せり」、7節「エホバ神、地の塵にて人を

誇り、其鼻の穴に命の息を吹き入れて、人は生ける魂になりぬ」、23節「アダムいはく、是は今吾骨のほね、吾肉のになり。此れ男より取りし物なれば女と名付けぬ」などがその例である。

4節以降に現われる「エホバ」、また4節と5節の内容が原文と大幅に異なっていることについては後述する〔まとめ〕の項。

2-3-1 第三章の訳文

1 エホバ神の造りし原の諸生物より蛇は黠かりき。彼、女にいへるは、神、園の都すべての樹より食ふべからずと実にいひしか。

【原】 ヴエハナはシユ（そして蛇は）ハヤー（〜であった）アルール（する賢い）ミコる（すべての〜より）はヤット（生き物）ハサデー（野の）アシユル（〜するところの）アサー（造った）アドナイ（主が）エろヒーム（神）ヴァヨメル（そして彼は言った）エる（に）ハイシャー（女）アフ キー（本当に〜か）アマル（言った）エろヒーム（神が）ろートへ

るー（お前達は食べるな）ミコる（どの〜から）エツ（木の）ハガン（園の）

【英】 Now the serpent was more subtil then any beast of the field which the Lord God had made. And he said unto the woman, Yea hath God said, Ye shall not eat of every tree of the garden ?

【漢】 耶和華神所造諸生物莫レ狡ニ於蛇一。蛇謂レ婦曰、爾勿ニ徧食ニ園中諸樹之果实一、非ニ神所レ命乎。

【B】 耶和華上帝所造生物中、莫レ狡ニ於蛇一。蛇謂レ婦曰、爾有三百樹一、上帝豈語レ汝云、勿レ食乎。

2 女蛇にいへるは園の樹の実は吾等得食ふべし。

【原】 ヴアトメル（すると言った）ハイシャー（女は）エる（に）ハナはシユ（蛇）ミベリ（実から）エツ（木の）ハガン（園の）ノへる（私達は食べる）

【英】 And the woman said unto he serpent, We may eat of the fruite of the trees of the garden :

【漢】 婦謂蛇曰、園樹諸果、我儕得レ食レ之、

【B】 婦曰、園樹結レ実、我俱可レ食、

3 唯園の中にある樹の実は汝等死なすべからず。又之に障るべからず。恐らくは汝等死なんと神はいひたまへり。

【原】ウミベリ(しかし実から)ハエツ(その木の)ア
シエル(〜ところの)ベトふ(中央に)ハガン(園
の)アマル(言った)エロヒーム(神は)ろーと
へるー(お前達は食べるな)ミメヌ(それから)
ヴェろー テイゲウー(また触れるな)ポー(それ
に)ベン テムトウン(お前達が死なないために)

【英】 But of the fruit of the tree which is in the midst of the garden, God hath said, Ye shall not eat of it, neither shall ye touch it, lest ye die.

【漢】 惟園之中、有二一樹果、神云、母レ食、母レ捫、免レ致三死亡一。

【原】 惟園之中、有二一樹一焉、上帝命勿レ食、勿レ捫、恐陷三死亡一。

4 蛇女にいひけるは汝等必ず死ぬまじ

【原】 ヴアヨメル(しかし言った)ハナはシュ(蛇は)エ
る(に)ハイシャー(女)ろーモット テムトウ
ン(あなた方は決して死なない)

【英】 And the Serpent said unto the woman, Ye shall not surely die :

【漢】 蛇謂婦曰、爾未必死。

【原】 蛇曰、汝未三必死一。
【英】 キー(なぜなら)ヨデア(知っている)エロヒーム(神は)キー(〜ことを)ベヨム(日に)アほるへム(あなた方が食べる)ミメヌ(それから)ヴェニフケ(〜として開かれる)エネへム(あなた方の目が)ヴィヘイテム(〜としてあなた方が〜になる)ケろヒーム(神のように)ヨドウエー(知っている者)トヴ(善)ヴェラア(と悪)

【英】 For God doth know, that in the day ye eat thereof, then your eyes shall be opened, and ye shall be as gods, knowing good and evil.

【漢】 神知四爾食之日、爾目即明、致三爾似レ神、能別三善惡一。

【原】 上帝知下食レ之日、爾目必明、能弁三善惡一、彷彿

佛神上。

6 爰に女其樹の食ふによく又目に麗しく賢くなるに慕はし
き樹なりと見て其実をとりて食ひ、又其友なる夫にあたへ、
彼も食へり。

【原】 ヴィハイテム (そして見た) ハイシャー (女は)
キー (〜ことを) トヴ (善) ハハツ (その木が) れ
マアはる (食べるのに) ヴェヒー (また〜ことを)
タアヴァー (欲望) フー (それが) らエナイム (目
にとつて) ヴェネふマッド (そして好ましい) ハエ
ツ (その木が) れハスキーる (賢くするのに) ヴァ
ティカは (そして彼女は取った) ミビルヨー (その
実から) ヴァトはる (そして食べた) ヴァティテン
(そして与えた) ガム (〜もまた) れイシャハ (彼女
の夫に) イマハ (彼女と共に) ヴァヨはる (そして
彼は食べた)

【英】 And when the woman saw that the tree was good for
food, and that it was pleasant to the eyes, and a tree to
be desired to make one wise, she took of the fruit
thereof, and did eat, and gave also unto her husband

with her, and he did eat.

【漢】 A 於是婦視其樹、可レ食、可レ観、又可レ慕、以三
其能益智慧也。遂摘レ果、食レ之、並給二其夫一、
夫亦食レ之。

B 婦視二其樹一、食可レ適レ口、観可レ娛レ目、能益二智
慧一、使二人生二慕、故取レ菓食レ之、亦以奉レ夫、
夫亦食レ之。

7 其二人の目開かれ、其裸なるを知り、無花果の葉をあみて
己の為に腰裳となせり。

【原】 ヴァティバカふチー (すると開かれた) エネー (目
が) シエネヘム (彼ら二人の) ヴァイエドウウー
(そして彼らは知った) キー (〜ことを) エルミーム
(裸である) ヘム (彼から) ヴァイトウベル (そし
て縫い合わせた) アレー (葉を) テエナー (いちじ
くの) ヴァヤアスー (そして作った) らヘム (自分
達のために) はヨロット (帯を)

【英】 And the eyes of them both were opened, and they
knew that they were naked; and they sewed fig
leaves together, and made themselves aprons.

【漢】A 二人目即明、始覺^二身裸^一、乃編^二無花果樹葉^一為^レ裳。

【B】二人目明、自知^二裸体^一、遂編^二蕉葉^一為^レ裳。

8 日の涼しき時に園にあるくエホバ神の声をきつて、アダムと其妻はエホバ神の前より園の樹の間に身をかくせり。

【原】ヴァイシユメウー(そして彼らは聞いた) エット(を) コーる(声) アドナイ(主の) エロヒーム(神) ミトウハれふ(歩き回っている) バガン(園の) 中で) れルアは(風に従って) ハヨム(日中の) ヴァイトウはベー(そして身を隠した) ハアダム(人) ヴェトシユトー(と彼の妻は) ミズネー(顔から) アドナイ(主の) エロヒーム(神) ベトふ(中央に) エツ(木の) ハガン(園の)

【英】And they heard the voice of the Lord God, walking in the garden in the cool of the day: and Adam and his wife hid themselves from the presence of the Lord God, amongst the trees of the garden.

【漢】A 日昃涼風至、耶和華神遊^二於園^一。亞当与^レ婦聞^二其声^一、匿^二身園樹間^一、以避^二耶和華神之面^一。

【B】日昃涼風至、耶和華上帝遊^二於園^一。亞当与^レ婦聞^二其声^一、匿^二身樹間^一、以避^レ之。

9 エホバ神アダムを呼び之に曰、汝はいづくにあるか。

【原】ヴァイクラー(そして呼んだ) アドナイ(主は) エロヒーム(神) エる(に向かつて) ハアダム(人) ヴィヨメル(そして言った) ろー(彼に) アイエーカ(お前はどこか)

【英】And the Lord God called unto Adam, and said unto him, Where art thou?

【漢】A 耶和華神召^二亞当^一云、爾何在。

【B】耶和華上帝召^二亞当^一云、汝何在。10 曰、園にて吾爾の声を聞き、吾裸なる故に恐れて身をかくせり。

【原】ヴァヨメル(すると彼は言った) エット(を) コるはー(あなたの声) シヤマアティム(私は聞いた) バガン(園の中で) ヴァイラー(そして恐れた) キー(なぜなら) エロム(裸である) アノひ(私は) ヴァエはヴェー(それで隠れた)

【英】And he said, I heard thy voice in the garden, and I

was afraid, because I was naked: and hid myself

【漢】A 曰、在園中、我聞爾聲、以裸故、懼而自匿。

B 曰、我聞爾聲於園、以我裸故、畏而自匿。

11 曰、誰が汝は裸なりと告しか。吾食ふ可からずと汝に命ぜし其樹より食ひしか。

【原】ヴァヨメル(そして彼は言った) ミー(誰が) ヒ

ギッド(告げた) れはー(お前に) キー(〜ことを)

エロム(裸である) アータ(お前が) ハミン(から

〜のか) ハエツ(その木) アシユル(〜ところの)

ツイヴィティーは(私がお前に命じた) れヴィー

ティアほる(食べないように) ミメヌ(それから)

アはるタ(お前は食べた)

【英】And he said, Who told thee, that thou wast naked?

Hast thou eaten of the tree, whereof I commanded

thee, that thou shouldst not eat?

【漢】A 曰、誰告爾裸乎、我禁爾勿食之樹、爾食

之乎。

B 曰、孰言爾裸乎、我命爾勿食之樹菓、爾乃

食乎。

12 アダムいひけるは吾と共に居る為に爾が賜ひし女彼樹より

吾に与へしかは吾食せり。

【原】ヴァヨメル(すると言った) ハアダム(人は) ハイ

シャー(あの女が) アシエル(〜ところの) ナター

タ(あなたが与えた) イマデイ(私と共に) ヒー

(彼女が) ナテナー(与えた) リー(私に) ミン(か

ら) ハエツ(その木) ヴアオへる(それで私は食べ

た)

【英】And the man said, The woman whom thou gavest to

be with me, she gave me of the tree, and I did eat

【漢】A 亜当曰、爾所賜我之婦、以樹果給我、我

食之。

B 亜当曰、爾以婦賜我、与我為偶、婦予我

菓、而我食之。

13 エホバ神女に曰、汝は何故にこの事をなせしか。女いへ

るは蛇吾を惑はして吾食せり。

【原】ヴァヨメル(そして言った) アドナイ(主は) エロ

ヒーム(神) らイシャー(女に) マー(何か) ゴツ

ト(これは) アスイート(お前がした) ヴアトメル

(すると言った) ハイシャー (女は) ハナはシユ (蛇が) ヒシアーニ (私を欺いた) ヴァオへる (そして私は食べた)

【英】 And the Lord God said unto the woman, What is this that thou hast done? And the woman said, The serpent beguiled me, and I did eat.

【漢】 【A】 耶和華神謂婦曰、爾何為也。婦曰、蛇誘惑我、我故食之。

【B】 耶和華上帝謂婦曰、爾何為耶。婦曰、蛇誘我食之。

14 エホバ神蛇にいへるは、汝この事をなせし故に、汝は都へての生畜と都へての原の獣畜より詛られ、汝腹にてゆかん。汝命のあらん限り塵を食ふべし。

【原】 ヴァヨメル (そして言った) アドナイ (主は) エロヒーム (神) エる (に向かつて) ナはシユ (蛇) キー (なぜなら) アスイータ (お前がした) ソツト (このことを) アルール (呪われている) アター (お前は) ミコる (すべてより) ハバヘマー (家畜の) ウミコる (またすべてのより) はヤット (生き物)

ハサデー (野の) アる (の上で) ゲほんはー (お前の腹) テれふ (お前は歩く) ヴェアファル (そして塵を) トはる (お前は食べる) コる (すべての) イエマー (日々) はイエーは (お前の生涯の)

【英】 And the Lord God said unto the Serpent, Because thou hast done this, thou art cursed above all cattle, and above every beast of the field: upon thy belly shalt thou go, and dust shalt thou eat all the days of thy life:

【漢】 【A】 耶和華神謂蛇曰、爾既為此、爾必見詛、甚於諸畜百獸、爾必腹行、畢生食塵。

【B】 耶和華上帝謂蛇曰、爾既為此、較之百畜、百獸、必更見詛、爾必腹行、畢生食塵。

15 且吾汝と女の間、また汝の種と女の種の間、汝を置かん。彼は汝の首を碎き、汝は彼の踵を碎かん。

【原】 ヴェヴァー (そして敵意を) アシート (私は置く) ベンはー (お前の間) ウヴェン (ととの間に) ハイシャー (女) ウヴェン (またとの間) ザルアはー (お前の子孫) ウヴェン (ととの間に) ザルアハ (彼女の子孫) フー (彼は) イエシユフはー (お前を碎

く) ローシエ(頭を)ヴェアター(そしてお前は)テシユフェンヌ(彼を砕く)アケーヴ(かかとを)

【英】 And I will put enmity between thee and the woman, and between thy seed and her seed; it shall bruise thy head, and thou shalt bruise his heel.

【漢】 A 我將_レ使_下爾与_レ婦為_レ仇、爾裔与_レ婦裔亦為_レ仇、婦裔將_レ擊_二爾首_一、爾將_レ擊_二其踵_一。

B 我以_二生孽之心_一置_二爾与_レ婦之衷_一、爰及_二苗裔_一、彼將_レ傷_二爾首_一、爾將_レ傷_二其踵_一。

16 女に曰、吾必ず汝の苦勞と懷妊をまさん。汝苦勞して子を生まん。汝夫を慕ひ彼汝を治めん。

【原】 エる(に向かつて)ハイシャー(女)アマル(彼は言つた)ハルバー(増しに)アルペー(私は増そう)イツヴォォネーふ(お前の苦痛を)ヴェエヒロネーふ(とお前の妊娠を)ベエツエヴ(苦しみの中で)テるディー(お前は産む)ヴァニーム(息子達を)ヴェエる(そして)イシエふ(お前の夫)テシユカテーふ(お前の強い欲求が)ヴェエフー(そして彼は)イムシヨる(支配する)バーふ(お前を)

【英】 Unto the woman he said, I will greatly multiply thy sorrow and thy conception; in sorrow thou shalt bring forth children, and thy desire shall be to thy husband, and he shall rule over thee.

【漢】 A 謂_レ婦曰、我必以_二胎孕之苦_一、重加_二於爾_一、産子維艱、爾必恋_レ夫、夫必治_レ爾。

B 謂_レ婦曰、我必使_下爾懷妊劬勞、産育維艱、爾必繫_二恋於夫_一。夫為_中爾綱_上。

17 又アダムに曰、汝妻の声を聞き吾食ふべからずといひて汝に命ぜし其樹より食ひし故に、地は汝の為に詛られ、汝の命のあらん限り苦勞して之を食ひ、

【原】 れアダム(そしてアダムに)アマル(彼は言つた)キー(なぜなら)シヤマアタ(お前は聞いた)れくる(声に)イシユテはー(お前の妻の)ヴァトはる(そして食べた)ミン(から)ハエツ(その木)アシエル(〜ところの)ツイヴィテイーは(私がお前に命じた)れモール(〜と言つて)ろートはる(お前は食べるな)ミメナ(それから)アルラー(呪われている)ハアダマー(土地は)バアヴレーは

(お前のゆえに) ベイツァヴォン (苦痛の中で) トは
れンナ (お前はそれを食べる) コる (すべて)
イエマー (日々) はイエーは (お前の生涯の)

【英】 And unto Adamm he said, Because thou hast hearkened
unto the voice of thy wife, and hast eaten of the tree,
of which I commanded thee, saying, Thou shalt not
eat of it: cursed is the ground for thy sake: in sorrow
shalt thou eate of it all the dayes of thy life:

【漢】 【A】 謂_二亜当_一曰、既聽_二婦言_一、食_二我所_レ禁之樹_一、地
縁_レ爾而見_レ詛、爾畢生勞苦、由_レ之得_レ食。

【B】 謂_二亜当_一曰、既聽_二婦言_一、食_二我所_レ禁之樹_一、故
土地縁_レ爾見_レ詛、爾畢生鬱伊、食_二其所_レ産_一。

18 地汝が為に荊棘や刺薊を生じ、汝原の青物を食はん。

【原】 ヴェロツ (そして茨) ヴェダルタル (とあざみを)
タツミアは (それは芽生えさせる) らーふ (お前の
ために) ヴェアはるタ (そしてお前は食べる) エッ
ト (を) エセヴ (草) ハサデー (野の)

【英】 Thorns also and thistles shall it bring forth to thee:
and thou shalt eat the herb of the field.

【漢】 【A】 必為_レ爾而生_二荊棘_一、爾將_レ食_二田之蔬_一。
【B】 土將_レ叢_二生荊棘_一、汝所_レ食者、惟田之蔬。
19 汝地にかへるまで面に汗して汝パンを食ふべし。汝地よ
り取られき。汝は塵なり。故に又塵にかへるべし。

【原】 ベセアット (汗の中で) アバーは (お前の鼻は) ト
はる (お前は食べる) れハム (パンを) アッド (ま
で) シユヅはー (お前が帰る) エる (に) ハアダ
マー (土) キー (なぜなら) ミナメ (それから) る
カふタ (お前は取られた) キー (なぜなら) アファ
ル (塵) アータ (お前は) ヴェエる (そして) に
アファル (塵) タシユーヴ (お前は帰る)

【英】 In the sweat of thy face shalt thou eat bread, till thou
returne unto the ground: for out of it wast thou
taken: for dust thou art, and unto dust shalt thou
return.

【漢】 【A】 必汗流浹_レ面始可_二餽_レ口_一、迨_二爾歸_レ土_一、蓋爾由_レ
土出、爾乃塵也、必復歸_二於塵_一。

【B】 必汗流浹_レ面、庶可_レ餽_レ口、逮_二爾歸_レ於所_レ出之土_一、
爾後已、汝身乃土、死則返_二其本_一焉。

20 アダム其妻の名をハアバといへり。彼群生の母たればなり。

【原】 ヴァイクラー（そして呼んだ）ハアダム（人は）シエム（名前を）イシユトー（彼の妻の）はヴァー（エバと）キー（なぜなら）ヒー（彼女は）ハイター（うであつた）エム（母）コる（すべての）はい（生き物の）

【英】 And Adam called his wife's name Eve, because she was the mother of all living.

【漢】 A 亜当名レ婦曰「夏娃」、以三其為二群生之母一也。

B 亜当名レ婦曰「夏娃」、以三其為二群生之母一也。

21 エホバ神、アダムと其妻のために皮の衣を製り彼等に著せたり。

【原】 ヴァヤアス（そして造つた）アドナイ（主は）エロヒーム（神）レアダム（アダムのために）ヴェレイシユトー（また彼の妻のために）コトゥノット（衣を）オール（皮の）ヴァヤヤルピシエム（そして彼らに着せた）

【英】 Unto Adam also, and to his wife, did the LORD God make coats of skins, and clothed them.

【漢】 A 耶和華神為二亜当及婦一、作二皮衣一衣レ之。

B 耶和華上帝為二亜当及婦一、作二皮衣一衣レ之。

22 エホバ神曰、みよ人善悪を弁ふるは吾等の一のごとく成れり。今恐らくは其手を伸し、又生命の樹より取りて食ひ永生せん。

【原】 ヴァヨメル（そして言つた）アドナイ（主は）エロヒーム（神）ヘン（見よ）ハアダム（人は）ハヤー（なつた）ケアはツド（一人のように）ミメヌ（私達の中の）ラダアット（知るために）トヴ（善）ヴァラア（と悪を）ヴェアター（そして今）ペンイシユラは（彼が伸ばさないように）ヤドー（彼の手を）ヴェラカは（そして取らないように）ガム（も）メエツ（木から）ハはいム（命の）ヴァアはる（そして食べないように）ヴァはい（そして生きないように）れオラム（永遠に）

【英】 And the Lord God said, Behold, the man is become as one of us, to know good and evil: and now, lest he put forth his hand, and take also of the tree of life, and eat and live for ever:

【漢】**A** 耶和華神曰、其人己能別善惡、彷彿我儕之
一、恐伸手又折生命樹、食之而永生。

【原】耶和華上帝曰、人能別善惡、彷彿我儕、恐
其伸手、亦折生命樹、食之而永生。

23 故にエホバ神地を耕さんが為に其地より取りし人をイヒデ
ンの園より出せり。

【原】ヴァイエシヤレヘーフ(そして彼を送った) アドナ
イ(主は) エロヒーム(神) ミガン(園から) エデ
ン(エデンの) らアヴォド(耕すために) エット
(を) ハアダマー(土地) アシエル(ところの) ー
カは(彼が取られた) ミシヤム(そこから)

【英】 Therefore the Lord God sent him forth from the
garden of Eden, to till the ground, from whence he
was taken.

【漢】**A** 耶和華神故遣其人出埃田園、耕所自出之
地上。

【原】故遣其人、出埃田園、以栽下植所自出之
土上。

24 かく人を追出して生命の樹の道路を守る為にイヒデンの園の
東にケルビンと自づからまはる焔の剣を置けり。

【原】ヴァイエガレシユ(そして彼は追放した) エット
(を) ハアダム(人) ヴァヤシユケン(そして住ませ
た) ミケデム(東の方に) レガン(園の) エデン
(エデンの) エット(を) ハケルヴィーム(ケルビ
ム) ヴェエット(とくを) らハット(炎) ハヘレヴ
(剣の) ハミトウハベヘット(回っている) リシユモ
ル(守るために) エット(を) デレふ(道) エツ
(木の) ハはイーム(命の)

【英】 So he drove out the man; and he placed at the east of
the garden of Eden, Cherubims, and a flaming sword
which turned every way, to keep the way of the tree
of life.

【漢】**A** 遂遂其人一出、乃於埃田園東置数基路水、
与自能舞旋之焔劍上、以防生命樹之途。

【原】遂遂之出、於埃田園東、置三口基路口水、
与焔劍、指揮莫定、以防範生命樹之途焉。

2-3-2 第三章の検討

第三章の各節の日本語訳を構成する成分には次のような場合がある。

原文にだけあるもの、あるいは原文の表現とだけ一致するもの

1節の「園の都べての樹より食ふべからずといひしか」の「実に」は原文「アフ キー（本当に〜か）」にだけある語である。また、20節の人々ハアバは原語 *Hevvin* の首写である。

原文および英訳と一致するもの

1節の「原の諸生物」の「原」、12節「吾と共に居る」の「共に」、22節の「みよ」また「今」は原文または英訳にあり、漢訳にはない語である。また、12節の「樹より吾に与へしかば」は、漢訳の「樹の果を我に給ふ」（改訂英訳でも *she gave me fruit from the tree.*）によるのが理解しやすいが、そのような訳になっていないのは、原文または英訳の直訳だからであろう。また、16節の第一文は、漢訳では生みの苦しみだけが与えられているが、原文または英訳では「苦痛」*sorrow* と「妊娠」*conception* の二つが与えられており、明治十年訳も同じである。「妊娠」は子を産む喜びを意味し、次の句の「汝夫を慕ひ彼女を治めん」と呼応すると考えられる（岩波書店版『旧

約聖書』参照）。ちなみに明治二十一年刊は漢訳と同じく「懷妊の劬勞」だけであり、以降新共同訳までそれに従っている。19節「パンを食ふ」の「パン」は提喻であり、食べ物一般を指す。その意味では漢訳の「餽口」とは同じであるが、表現は異なる。

英訳および漢訳と一致するもの

7節の「腰裳」の原文は「ゴロット（帯）」である。漢訳「裳」、英訳 *aprons*（エプロン）から訳されたものであろう。19節の「面に汗して」の「面」。原文は「お前の鼻は汗の中で」である。英訳 *in the sweat of thy face.* 漢訳「汗流浹面」から訳されたものであろう。

英訳とだけ一致するもの

8節の「日の涼しき時に」。英訳 *in the cool of the day*。原文は「レルアは（風に従って）ハヨム（日中の）」、漢訳も「日長涼風至」である。

漢訳とだけ一致するもの

2節の「女蛇にいへるは園の樹の実は吾等得江食ふべし」はAの「婦謂蛇曰、園樹諸果我儕得食之」の訓読文に極めて近い。また、3節の「恐らくは汝死なん」も漢訳Bの「恐

陥^三死亡^二」の訓読に、22節の「恐^{おそ}らくは……せん」もまた、漢訳Aの「恐伸^レ手又折^三生命樹^一、食^レ之而永生」の訓読によるものようである。また、24節には原文「ヴァアヤシケン（そして住ませた）」また英訳でも「the placed」とあるが、日本語訳には漢訳同様にない。単語レベルでも、1節の「諸生物^{しよせいぶつ}」、16節の「懐妊^{くわいにん}」(B)、20節の「群生^{ぐんせい}」(A)(B)は漢訳と一致する。また、「自づからまはる」の「自づから」は原文にはなく、漢訳「自能舞旋^{じねいぶせん}」(A)あるいは「指揮莫^しレ定^{じやう}」(B)と一致する。英訳の「every way」(どの点から見ても、どうみても)はそれに対応する文成分と思われるが、意味が異なる。

まとめ

以上、明治十年刊『旧約聖書二冊記第一』の全文を検討したが、重複する主語が省略されたり、直訳ではなく意識されたりしているものもあるが、ヘブライ語の原文とほぼ過不足無く対応していることに注目される。例外は、第二章の4節と5節の内容が異なること、また第三章24節のアダムとイブとをエデンから追放して、その東に「住ませた」という内容がないことである。

また、節を構成する成分の日本語訳には、

A 原文にだけあるもの、あるいは原文の表現とだけ一致するもの

B 原文および英訳と一致するもの

C 原文および漢訳と一致するもの

D 英訳および漢訳と一致するもの

E 英訳とだけ一致するもの

F 漢訳とだけ一致するもの

という場合があったが、Aの例が存在することは原文から訳されたことを示すであろう。BまたCの例もそのように考えることを妨げるものではない。Dの例は第一章5節の「第一日」、第三章7節の「腰裳^{こしも}」と同章19節の「面に汗^{あせ}して」だけである。「第一日」は原文では「二つの日」である。明りと闇とが分けられ、昼と夜と名づけられて、その昼夜を合わせて「二つの日」としたと考えられるが、第二日以降は原文でも「第〇の日」という序数詞を用いた言い方になっており、それにあわせるのが合理的だと判断したものと思われる。「腰裳^{こしも}」と「面に汗^{あせ}して」は、「帯」また「お前の鼻は汗の中で」という原文の直訳では日本語訳としては不適であると判断したものと思われる。Eの例は、第二章3節の「めぐみて」と第三章8節の「日」。

の涼しき^{すず}時に^{とき}」だけであるが、前者は日本語の用い方を誤つたものと思われ、後者は原文「日中の風に従つて」では意味が取りにくいことから英訳に拠つたものと思われる。

しかし、Fの例は原文から訳されたことの有力な反証のように思われる。特に第二章4節以降に現われる「エホバ」は漢訳「耶和華」の音写と考えられ、原文の「アドナイ」(ADNY・「わが主」の意味)ではないことは注目される。しかし、「アドナイ」は、ユダヤ教徒がみずからの神の固有名「ヤハウエ」(YAHWAH)を直接唱えることを恐れて用いられているのであり(出エジプト記20・7、申命記5・11)、the Lord Godと訳されている英訳はともかく、ヤハウエを我が主、わが神としない日本人には不都合であり、客観的に神の固有名を示すしかないであろう。これは漢訳において「耶和華」と訳されているのも同様の事情からであると考えられるが、日本訳の「エホバ」は漢訳を機械的に採用したのではないと思われる。翻訳の次元とは異なる右のような判断があつたはずである。¹³⁾

もう一例、Fの例で特に注目されるのは、先に述べたように、第三章24節のアダムとイブとをエデンから追放して、その東に「住ませた」という内容がないことである。その理由は不詳

であるが、その直前に「地を耕^{なげ}さんが^{ため}為に」あり、漢訳と同様に省略するのが合理的だと判断したものと思われる。

しかし、これらの例も含めて、日本語訳が漢訳の書き下し文に類似するものが多く、使用されている漢字の多くも漢訳のそれと一致することは無視できないことである。このことから日本語訳そのものが漢訳の書き下し文によつて成立したとする考え方があることは前述のとおりである。

しかしなお、「旧約聖書」の翻訳の前に行われた「新約聖書」の翻訳委員会において確認されていた原則は注目されなければならぬであろう。すなわち、新約聖書翻訳委員会の長であつたブラウン(S. R. Brown)の愛弟子であつた井深梶之助の回顧文に次のような証言がある。

委員会の決議では仮名が本文であつて漢字の方では無いと定まつたと承知して居る。夫れ故に新約聖書には振漢字はあるが振仮名は無いといふ事になるのである。¹⁴⁾

右に言う「振り漢字」とは本来の訳語が振り仮名の形で示され、本行にその宛字である漢字が書かれているものを言う。すなわち、振り仮名の形で示されているものが、日本語訳の本文であり、漢字は意味を理解しやすいように、あるいは平仮名だ

けの紙面では權威あるもののようには見えないために、後に加えられたものにすぎないのである。

井深はブラウンの「折角聖書を日本語に翻訳しても只少数の学者文に読めて普通の人民に読めぬやうでは何の益があるか」という発言も紹介しているが、この主張は外国人宣教師たちが等しく抱いていたことであった。したがって、かな版の聖書も刊行されたのである。¹⁶ その一つである『またいでん』（明治十一年〔1878〕刊）の一節を次に掲げるが、漢字は文字通り「振り漢字」である。

こ、心ろのまづしきものはさいはひなり
 てんこくはすなはちそのひとのものなれば
 なりかなしむものはさいはひなり。そのひと
 はなぐさめをうべければなり
 （第五章3・4節）

この振り漢字が本行の中に入ってきたのは、漢訳聖書を重んじ、漢文の書き下し文的な文体を好む日本人翻訳委員の意図によるとされるが、しかし、「仮名が本文であつて漢字の方では無い」という原則は、旧約聖書翻訳委員会においても同じであつたと考えられる。したがって、例えば冒頭の第一章1節は、

ヘブライ語原文から例えば「はじめにかみはてんとちをつくつた」といった内容の日本語訳が外国人翻訳委員によつて先ず考えられ、それが日本人翻訳補助方によつて、漢訳を参考に「元始に、神、天と地とを創造れり」という文に整えられたと考えるべきである。すなわち「元始」「創造」などの漢字は本質的には「振り漢字」でしかなく、日本語訳の過程においては二次的なものであり、日本語訳の成立に根本的に関わるものではないであらう。

しかし、漢訳に拠つて日本語訳が作られている箇所もある。第一章2節の「（神の靈水面の上に）掩ひ居たり」は、原文「飛び回つていた」また英訳の「moved」ではなく、漢訳[A]の「覆育」によつたものと考えられたが、漢訳[B]（Bもまた）は『礼記』「楽記」に「天地訴合、陰陽相得、煦嫗覆育万物」（天地和合し、陰陽調和して、万物を暖め、守り育てる）とあるような思想によつて訳されているものであり、日本では馴染みの深い思想による漢訳を採用したのであらう。

日本語訳では漢訳は特に[A]（ブリッチマンとカルバートソンの訳）を利用してはいるようであるが、それは本稿で掲げたものからも分かるように、原文に忠実に訳されており、同様な方針

を採る日本語訳と一致していたからにちがいない。これに対して[B]すなわち英国と米国の代表委員による「代表訳」は口調の良さを重視して、四六駢儷体に整えたり、語順を変えたり、原文に無い語を加えたり、省略したりしており、参考にはしなかったものと思われる。しかしなお「代表訳」もまた部分的には利用されている。第一章24節は「代表訳」の書き下し文とほぼ一致し、第三章3節と22節の「恐らくは……せん」という訳や、16節の「懐妊」という宛字も「代表訳」によると思われる

(ちなみに明治十一年訳の第二章24節の「故に人その父母を離れて其妻に膠漆、彼等は一体になるべし」とある「膠漆」という宛漢字も「代表訳」に見えるものである)。さらに第二章4・5節の訳からは「代表訳」との深い関係が読み取れる。ヘブライ語原文の第二章4節の後半からはそれまで語られてきた資料(祭司資料と呼ばれる)による天地創造説話とは別の資料(ヤーウエ資料と呼ばれる)による天地創造の話が始まる。すなわち原文の前半「エーレ(これらが)トるドット(由来)ハシヤマイム(天)ヴェハアレツ(と地の)」はそれまでの語られてきたことの結語であり、後半の「ベヒバルラム(それらが創造された時)ベヨム(日に)アソット(造つた)アドナイ

(主が)エロヒーム(神)エレッツ(地)ヴェシヤママ(と天を)」以下は新しい天地創造説話の始まりである。英訳もそのように訳されている。「BC訳」が「創_三造天地_一、其略如_レ左_一」と訳しているのは、4節の前半から新しい話の始まりとしているのは、七十人訳ギリシャ語聖書の、

⁴これは天と地の誕生の書。神が天と地をつくつたその日、野のすべての緑は地には生えておらず、野のすべての青草は萌え出てはいなかった。神が地の上に雨を降らさず、地を耕す人もいなかったからである。

と同じである。しかし、4節最初の文に「既」の語が加えられており、以降の内容はそれまでに語られたことの補足的な内容と考えたようである。4節と5節とが分けられていないのは、そのように理解した結果、後続の内容を合理的に説明することができなくなったからであろうか。ともあれ、日本語訳は「代表訳」を参考に、「代表訳」の前半の「耶和華上帝既造_三天地_一、……始造之日、野不_レ生_レ草不_レ植_レ蔬_一を参考に4節の訳文を作り、後半の「耶和華上帝未_レ降_三霖雨_一、其時耕作尚無_レ人也」を5節として訳し、その中間に原文の「エーレ(これらが)トるドット(由来)ハシヤマイム(天)ヴェハアレツ(と地の)」

を「此等は天と地とのなり立なり」と訳して差し挟んだようである。明治十一年刊の『旧約聖書創世記』の4節も同じ訳のままであるが、明治二十一年刊『旧約全書』に至って、

「エホバ神地と天を造りたまへる日に天地の創造られたる其由来は是なり。」

と原文に即した訳となる。しかしなお、昭和三十年(1955)の口語訳のように、

これが天地創造の由来である。主なる神が地と天とを造られた時、

と「主なる神が」から新しい話が始まるとすべきであったと思われる。

右のように、漢訳はブリッヂマンとカルバートソンの訳だけでなく、部分的ではあるが「代表訳」も参考に行っていることようであるが(注(1)参照)、ブリッヂマンとカルバートソンの訳も「代表訳」も、ミルン(W. Milne)の協力の下に完成したモリソン(R. Morrison)の『旧遺詔書』(道光二年[1822]刊)の流れを汲むものである。このモリソン訳が日本に入ったという形跡は見られず、日本語訳との関係を考えて研究もないようである。しかし、第一章2節「地は形なく空かりき。闇

きは淵の面の上に在りしが」、第三章1節「実にいひしか」の「実に」、同8節の「日の涼しき時に」は、それぞれモリソン訳の「地無様且虚。又暗在深之面上」「實是神所言乎」「於日之涼時」と一致しており、何らかの関係が想定される。また、明治二十一年刊の翻訳委員会刊『旧約全書』では、一八七四年刊のシエレシエフスキー(S. I. J. Scherschewsky)による「官話訳」(北京語)も利用されていることが指摘されているが、本稿で取り上げている明治十年刊の「創世記」第三章までの訳文で「官話」訳とだけ一致するのは、第一章9節の「一処」だけのようである。⁽¹⁹⁾

すなわち、明治十年刊「創世記」の日本語訳はヘブライ語原文を基としながら、英訳および種々の漢訳を参照しながら訳されているようである。しかし、残念ながらその日本語訳は「疎末ナル訳文」と言わざるをえない。第一章から例を取れば、2節の「聞きは淵の面の上に在り」の「面の上に」は原文を直訳したものではあるが、「の上」は日本語としては冗語となる。3節の「神、明りなれといひしに明りなき」の「なる」の用い方は誤用である。句と句とのつなぎ方も、6節の「…を分ちて、斯なりき」、8節の「…と名づけ、夕あり朝あり」、22

節の「といひしに」から23節の「夕あり、朝あり」など、不自然である。神に対する敬語の有無も一定しない。さらには15節の冒頭には前節の内容である「日や年のため」が誤って置かれており、第三章6節の「其友なる夫」の「友」は「共」の誤記であり、13節の「何故にこの事をなせしか」も「汝がなしたる此事は何ぞや」(明治十六年訳)と訳すべきであろう。これは外国人翻訳委員によって訳されたことを示すものと思われる。もちろん植村正久が言うように、翻訳のために雇われた「甚だ不適当ナル村夫子や未熟ナル青書生」などの手が借りられているであろう。『旧約全書』(明治二十一年刊)所収の本文には、このような不自然な日本語が見えないのは、明治十七年に正式に翻訳委員として加わった日本人の手が入ったことによると思われるが、それにともなつて、第一章の「XとYとの間」や28節の「葡萄」ものといった原文の直訳的なものがなくなり、漢訳の書き下し文に似たものが多くなったものと思われる。

[注]

(1) 『基督教新聞』(明治二十一年二月号)所載。ただし、『植村

久正と其の時代』(昭和十三年初版。教文社、昭和五十一年復刻版による) 第四卷 p.116-9 による。

(2) 「聖書の翻訳」(六合雜誌)第十七号、明治十五年一月十六日発行所載)。ただし、『植村正久と其の時代』p.221による。

(3) 植村正久「日本語聖書の由来」(福音新報)第一千八十八号、大正五年五月四日発行)に、

翻訳に際し各委員は頗る熱心に希伯来原本、官話訳、ウ
エンリ訳の支那聖書、殊に「テキスタス・レセプタス」、
其他多くの参考書によりて其の意義を質されしが、中
も英語欽定訳聖書は大いなる影響を与へたりと云ふ。

と見え(「ウエンリ訳」とは「文理訳」、「テキスタス・レセ
プタス」とはギリシャ語訳聖書公認本文のこと)、湯浅半月
訳『伝道之書』(アルパ社書店、昭和十二年刊)の「序」に
も「和訳の聖書は千八百六十一年に刊行されたジェームス王
欽定訳を台本とし、またヘブル原本をも斟酌して作られたも
のである」と見える。同様の指摘は多い。

(4) 植村久正「日本語聖書の由来」に「其の翻訳原稿は各宣教師
団中の特志者即ち監督フォス博士、デビッド・トムソン氏其
他の人々の提供せられたるもの多く」と見える。

(5) 藤原藤男「聖書の和訳と文体論」キリスト新聞社、昭和四十
九年刊 p.320

(6) 例えば森岡健二氏は漢訳聖書の書き下し文を基に手を加えた

ものであるとも、「非常に忠実な漢訳聖書の書き下し文」であるとも言われ(『近代語の成立』^{明治編} 明治書院、昭和四十四年〔1969〕刊、第七章「新約聖書の和訳」2「和文調の基礎に見られる漢字書き下し文」、都田恒太郎氏も「日本語訳聖書に及ぼしている中国語訳聖書の大きな影響(中略)極端な言い方をすれば、日本語訳聖書は中国語訳聖書ら訳出したものである」と言われ(『ロバート・モリソンとその周辺』中国語聖書翻訳史』教文館 1974 刊 p.4)、柳文章氏も、

ところで、この文語訳を、ブリッジマン・カルバートソンの中国訳、特にその読下し文と較べていただきたい。なるほどよく似ている。一つ一つのことば、ことばの組み立て、全体の構文に至るまで、日本語訳とそのお手本との関係が改めてよく分る。日本語訳は、英文などの原文よりもまずこの日本語訳をもとにしていたのだ、と十分推察できるであろう。(中略)要するに、もとは中国語文、つまり漢文であって、これを日本式に順序を変え、漢字を訓読みにし、日本語特有の助詞・助動詞、とくに助動詞の文末語をつけ加えると、まぎれもない日本語文語文ができあがるのである。

と言われ(『ゴッドと上帝——歴史の中の翻訳者』筑摩書房、昭和六十一年〔1986〕刊。改題『ゴッド』は神か上帝か)『岩波現代文庫』、引用は岩波現代文庫 p.138-9)、金成恩氏

も「中国においてはキリスト教文獻が英語から直接訳されてきたのに対し、日本の場合は中国語からの重訳だった」と言われている(『宣教と翻訳』東京大学出版会、平成二十五年〔2013〕刊、p.17)。

(7) 「ジャパン・ガゼット紙」(明治二十一年四月二十四日発行)所載。ただし、『植村久正と其の時代』第四卷 p.126 による。

(8) 明治学院大学図書館聖書訳デジタルアーカイブスによる。

(9) 旧約聖書の英訳の改訳 (Revised Version) は一八八五年(明治十八年)刊であり、明治十年刊「創世記」の日本語訳には利用されていないはずである。

(10) 江蘇滬邑美華書局 1882 年版(ゆまに書房『幕末邦訳聖書集成』所収)による。

(11) 江蘇松江上海墨海書館 1888 版(同志社大学神学部蔵)による。この版は英国系のものであり、したがって God の訳は「上帝」である。

(12) すなわち明治十六年刊『訓点旧約全書』の本文は「BC 訳」であり、明治十四年刊『訓点創世記』の本文は「代表訳」である。

(13) 「エホバ」という名は翻訳作業以前に知られていたものと思われる。海老沢有道『日本の聖書』聖書訳の歴史(日本基督教出版部、1964 刊 p.116) が紹介している僧針水の『英音和訳』(文久三年〔1863〕頃)の中の「ウリヤムス之十誠訳

言」に、

○神曰ク、我ハチホフ、汝ノ神ナリ。我ヨリ外に別ノ神等アルベカラズ。

○汝ノ神ヲチホノ名ヲ安リニイフベカラズ。チホフハ其名ヲ安リニイフ人ヲ赦サザルニヨリテナリ。

と見え、『誅邪私言』（慶応二年〔1866〕）に「耶和華」に注して「上帝或ハ真神天主ト称スルモノ皆耶和華ノ異名ナリ」とある。

(14) 井深梶之助「続横浜回顧（一）聖書翻訳者としてのブラオン博士」（『福音新報』一四三五号、大正十一年〔1922〕十二月発行）。

(15) 井深梶之助「聖書和訳について」（『福音新報』第一〇八八号、

大正五年〔1916〕五月四日発行）

(16) 海老沢有道『日本の聖書 聖書和訳の歴史』p.217)によると、一八七九年から八〇年頃に『またいでん』『まこいでん』『るかでん』『よはねでん』『しときやうでん』が刊行されている。

(17) 秦剛平訳『七十人訳ギリシヤ語聖書 モーセ五書』（講談社学術文庫、平成二十九年〔2017〕刊）による。

(18) 岐建治・川島第二郎「聖書翻訳史における元訳・口語訳・新共同訳：旧約聖書特に創世記を中心として」（『一橋大学研究年報 人文科学研究』27, 1988, 9, p.58）。

(19) ただし、聖書公会印発 2008 年刊『旧約全書』を使用した。

(20) 注（2）に同じ。